

## Ⅱ 地域及び公共交通の現状



大崎市の地勢、人口、施設の立地状況等に関する地域の状況、及び市内を運行する公共交通の現状は、以下の通りです。

なお、本計画の策定に向けた基礎調査は令和2年度に行っており、以下はその時点で入手可能なデータに基づいています。

### 1 地域の現状

#### 1-1 地勢等

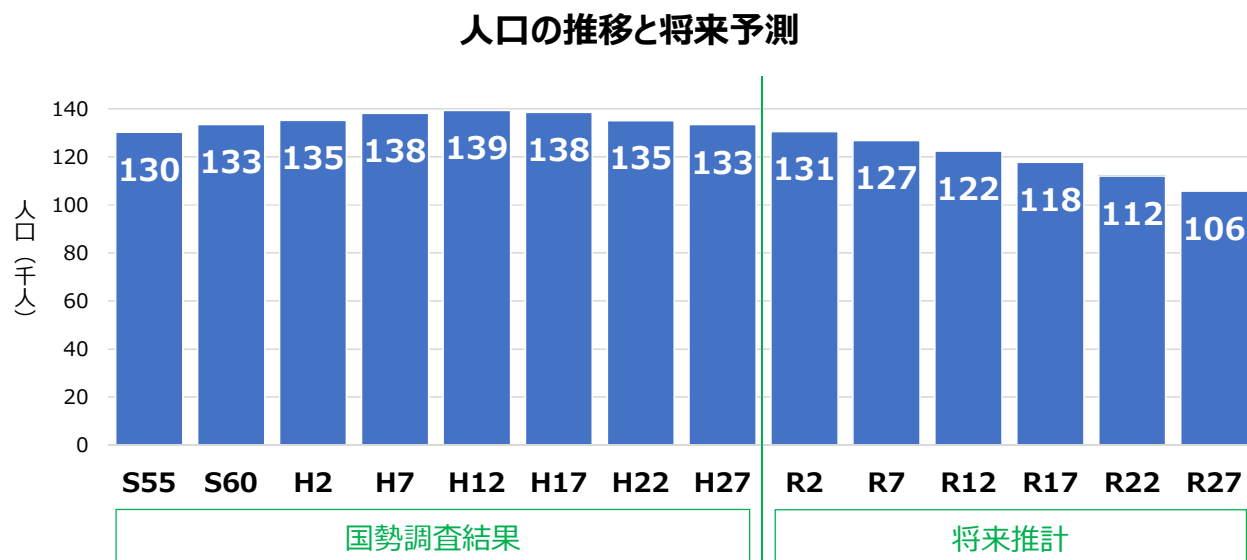
- 本市は、宮城県の北西部に位置し、東は遠田郡、登米市、西は加美郡、山形県、秋田県に接し、南は黒川郡、宮城郡、北は栗原市に接しています。
- 本市の大きな特徴の一つは、平成18年に、古川市・松山町・三本木町・鹿島台町・岩出山町・鳴子町・田尻町の7市町が合併して誕生したことにあり、北西～南東に長く796.81km<sup>2</sup>の広い市域に約12.7万人の市民が暮らしています。
- 本市の中心は古川地域であり、人口、主要施設が集まっているとともに、市南東部の地域は、仙台市への鉄道アクセスがよく通勤圏となっています。また、北西部の鳴子温泉地域は、観光地としての特性があります。



## 1-2 人口等の状況

### (1) 人口の推移と将来予測

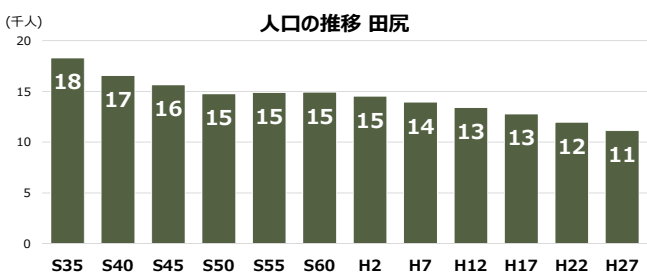
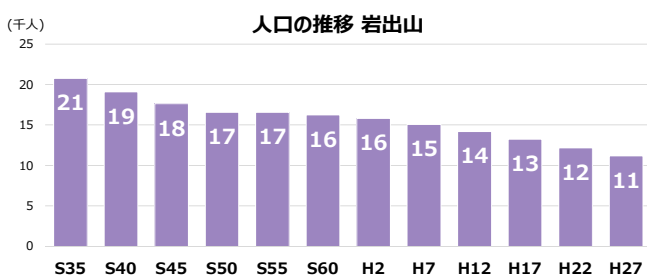
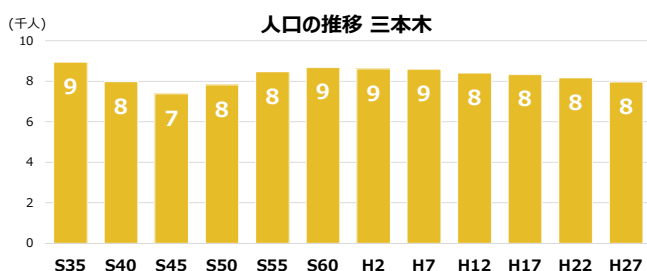
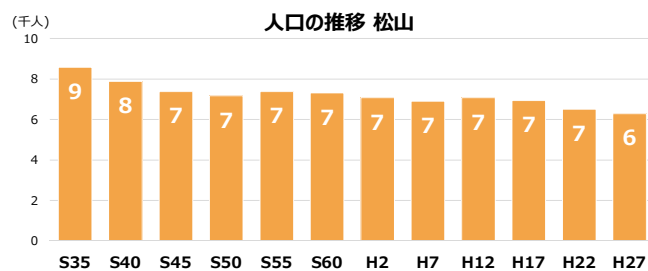
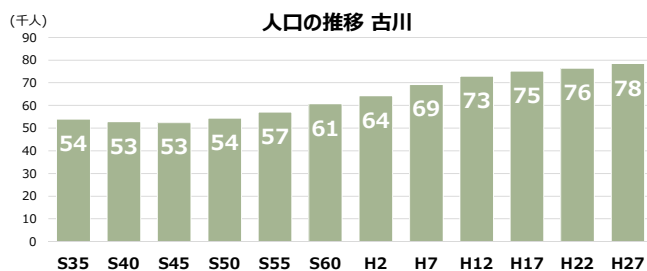
- 本市の総人口は、平成12年をピークに減少に転じており、今後も減少傾向が続く見通しとなっています。



国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計 より

## (2) 各地域の人口の推移

- 現状では、本市の人口の半分以上を古川地域が占めています。
- 各地域の人口推移を見ると、古川地域は増加している状況（S35年→H27年：4割増）ですが、岩出山、鳴子温泉、田尻の各地域は、減少傾向が続いています（S35年→H27年：4割程度以上減）。

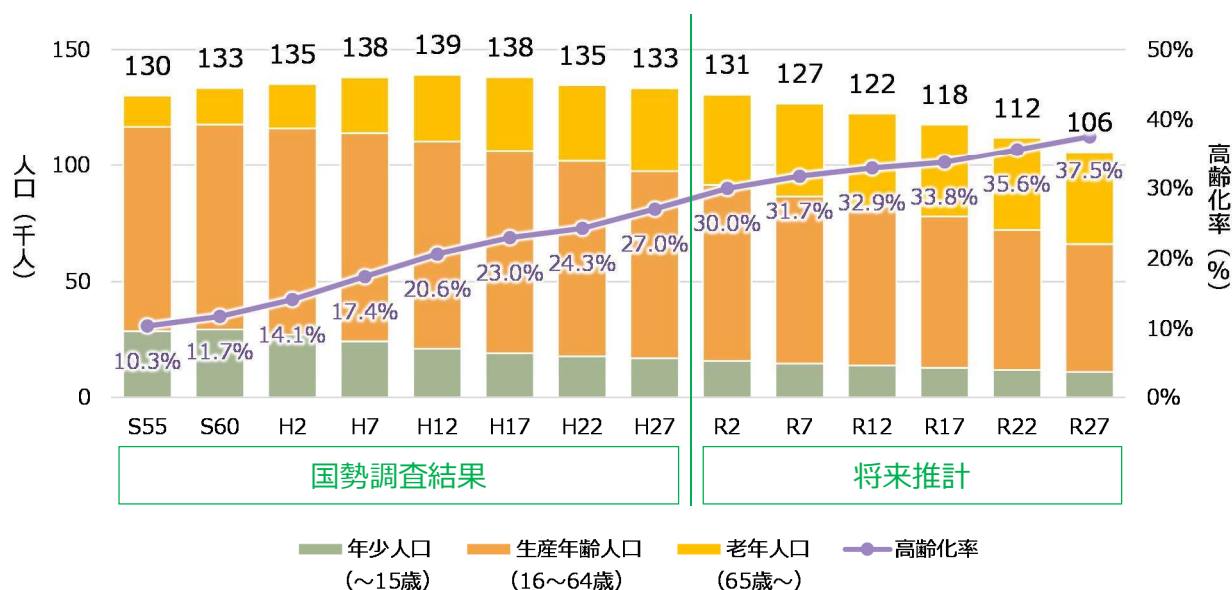


国勢調査 より

### (3) 年齢別人口

- 本市では高齢化が進んでおり、現在の高齢化率は30%程度となっています。総人口が減少していく中、今後も高齢化は進み、3人に1人以上が高齢者となる見通しです。なお、高齢化は、古川地域を除く地域で特に顕著となります。
- 総人口が減少する中、高齢者等の移動手段の確保は、ますます重要なテーマになります。

#### 人口・高齢化率の推移と将来推計



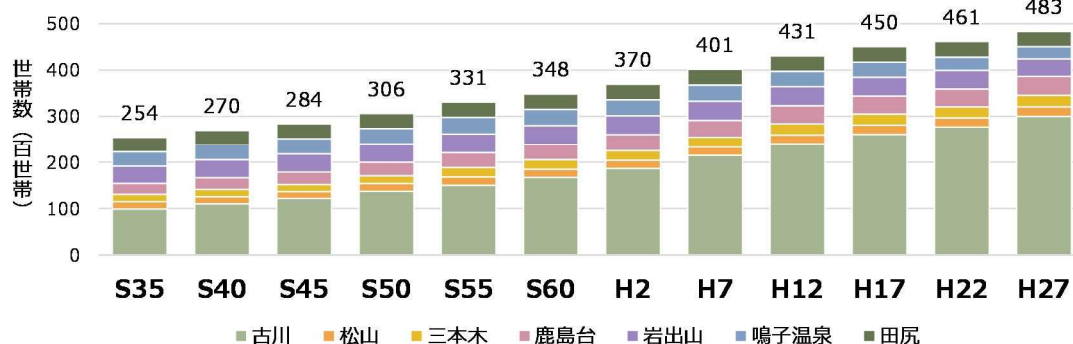
国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計 より



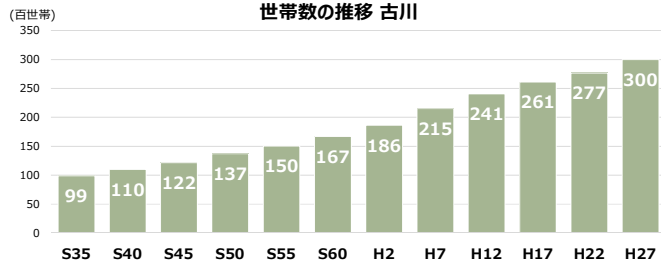
#### (4) 世帯数の推移

- 世帯数も、人口と同様、古川地域のみで顕著に増加し、その他では、本市の南部に位置する松山、三本木、鹿島台の各地域で増加傾向にあります。一方、鳴子温泉地域の世帯数は減少傾向です。

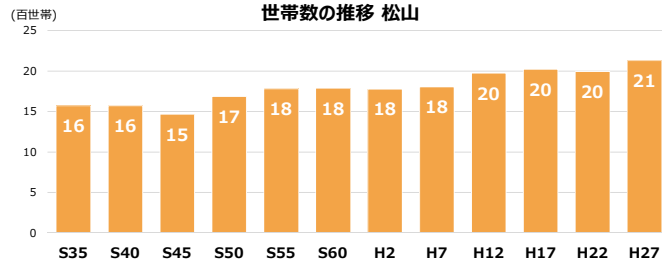
#### 大崎市全体の世帯数の推移



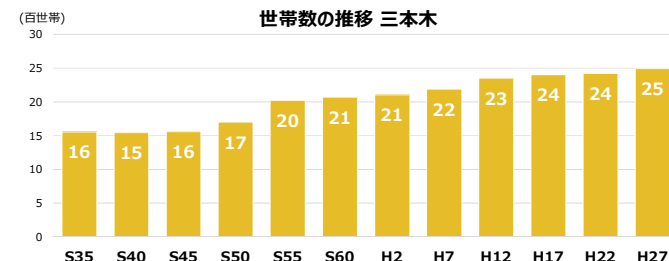
#### 世帯数の推移 古川



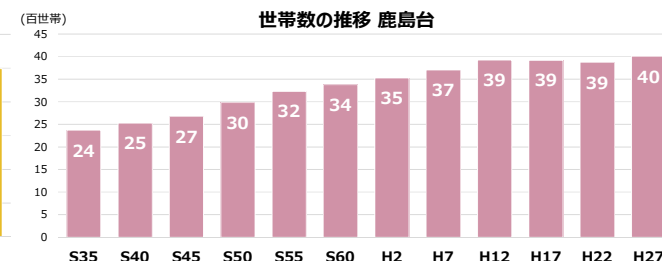
#### 世帯数の推移 松山



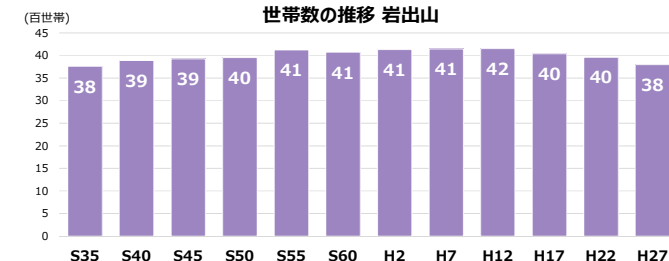
#### 世帯数の推移 三本木



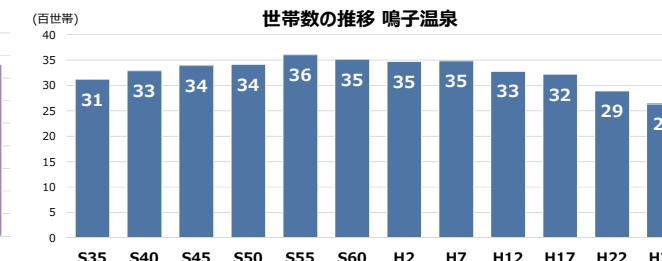
#### 世帯数の推移 鹿島台



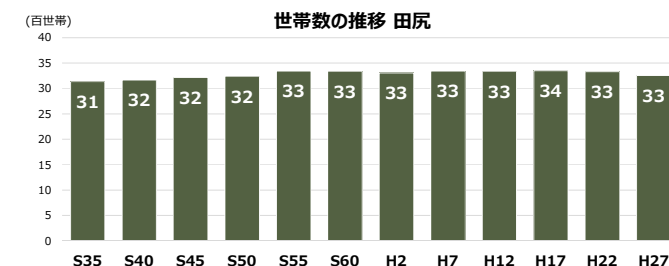
#### 世帯数の推移 岩出山



#### 世帯数の推移 鳴子温泉

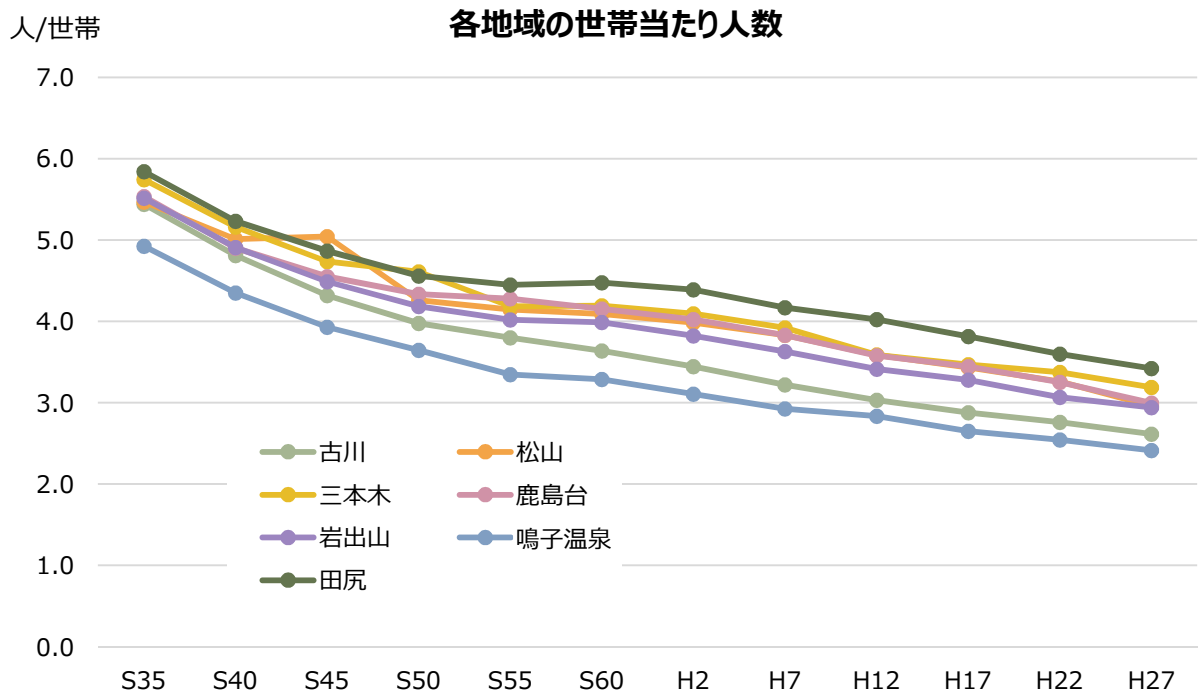


#### 世帯数の推移 田尻



国勢調査 より

- 世帯当たりの人数は、いずれの地域でも減少傾向にあります。
- 今後、高齢者のみの世帯や一人暮らしの高齢者が増え、家族のクルマによる送迎・同乗ができない人が増える可能性があります。

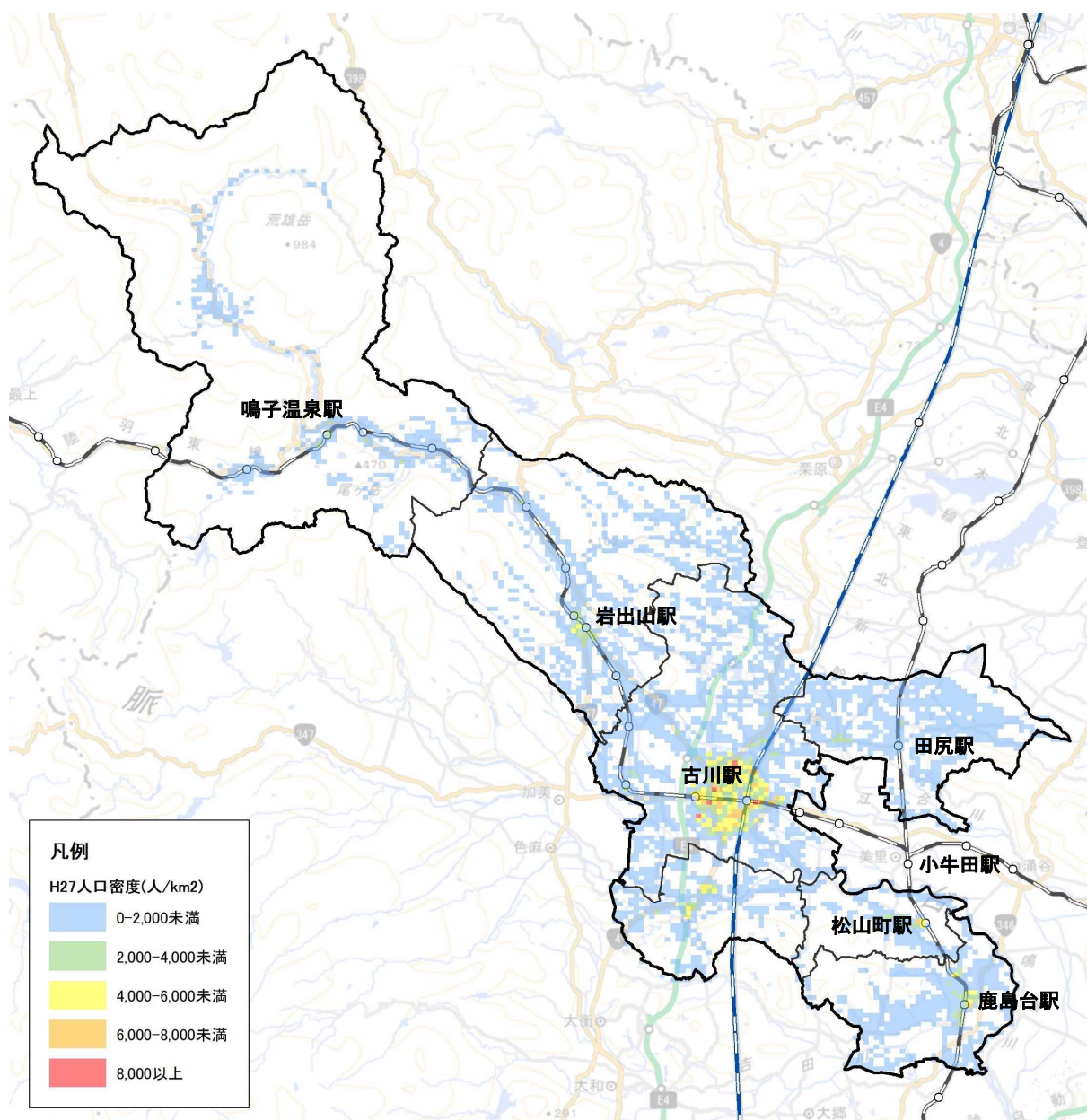


国勢調査 より

## (5) 人口等の分布状況

### 1) 人口

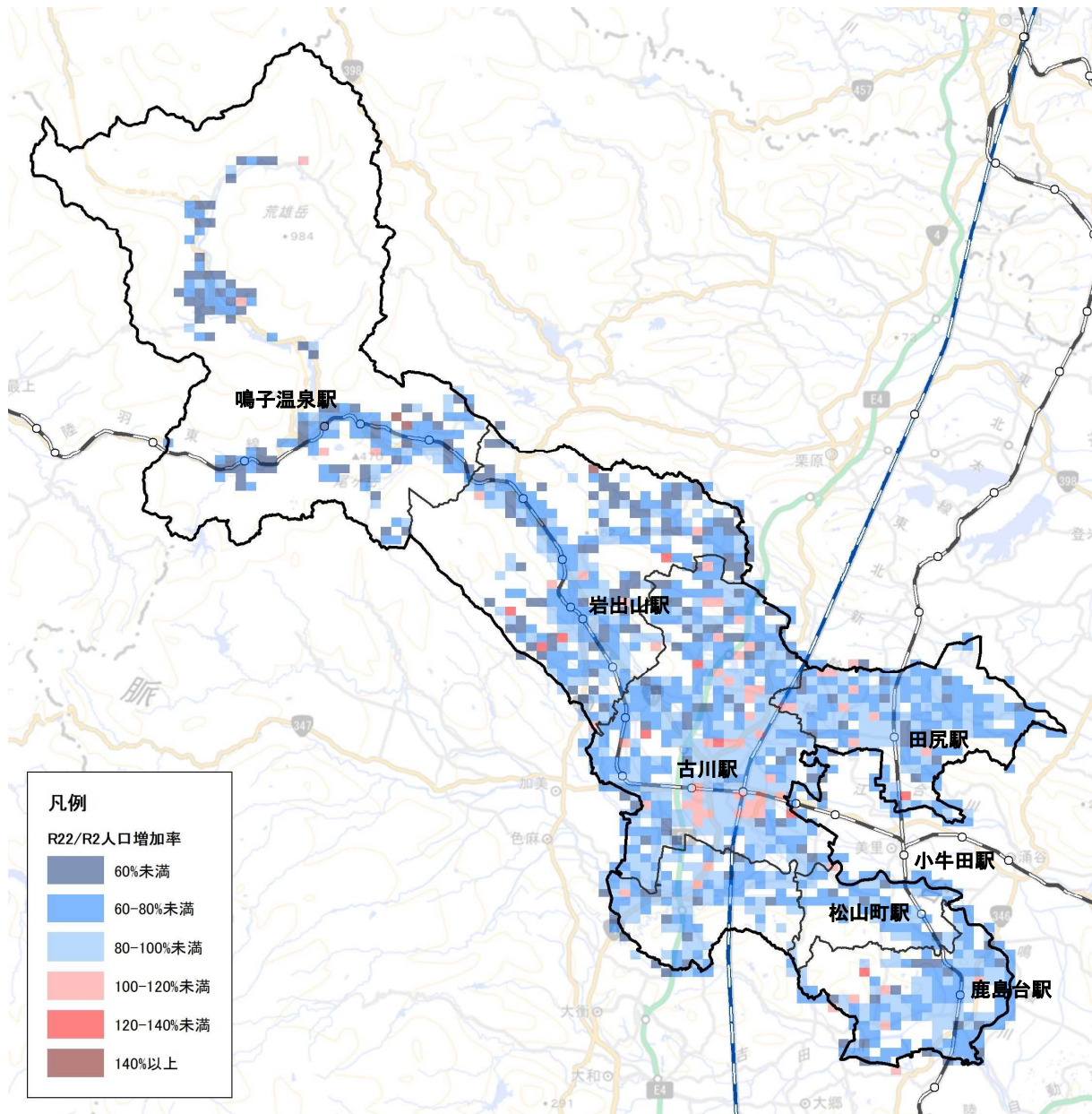
- 本市の人口は、市の中心部である古川地域の、特に古川駅周辺の市街地に集中しています。また、市の南東側の地域では、人口が広く薄く分布している状況です。
- 市の北西側の地域の人口は少なく、鉄道、主要道路の沿線に多く分布しています。
- 人口の集中していない箇所にも、居住地が広く点在しており、鉄道や路線バスのような公共交通で移動手段を確保することが難しい状況にあります。



国勢調査 (H27) より

## 2) 人口増減 (2020→2040 年)

- 人口は、現在から将来にかけて、増加する見込みの箇所が点在しているものの、市域全体で減少する見通しです。
- 人口の減少は、古川地域の中心部周辺で比較的小さく、市の北西側で大きい傾向があります。

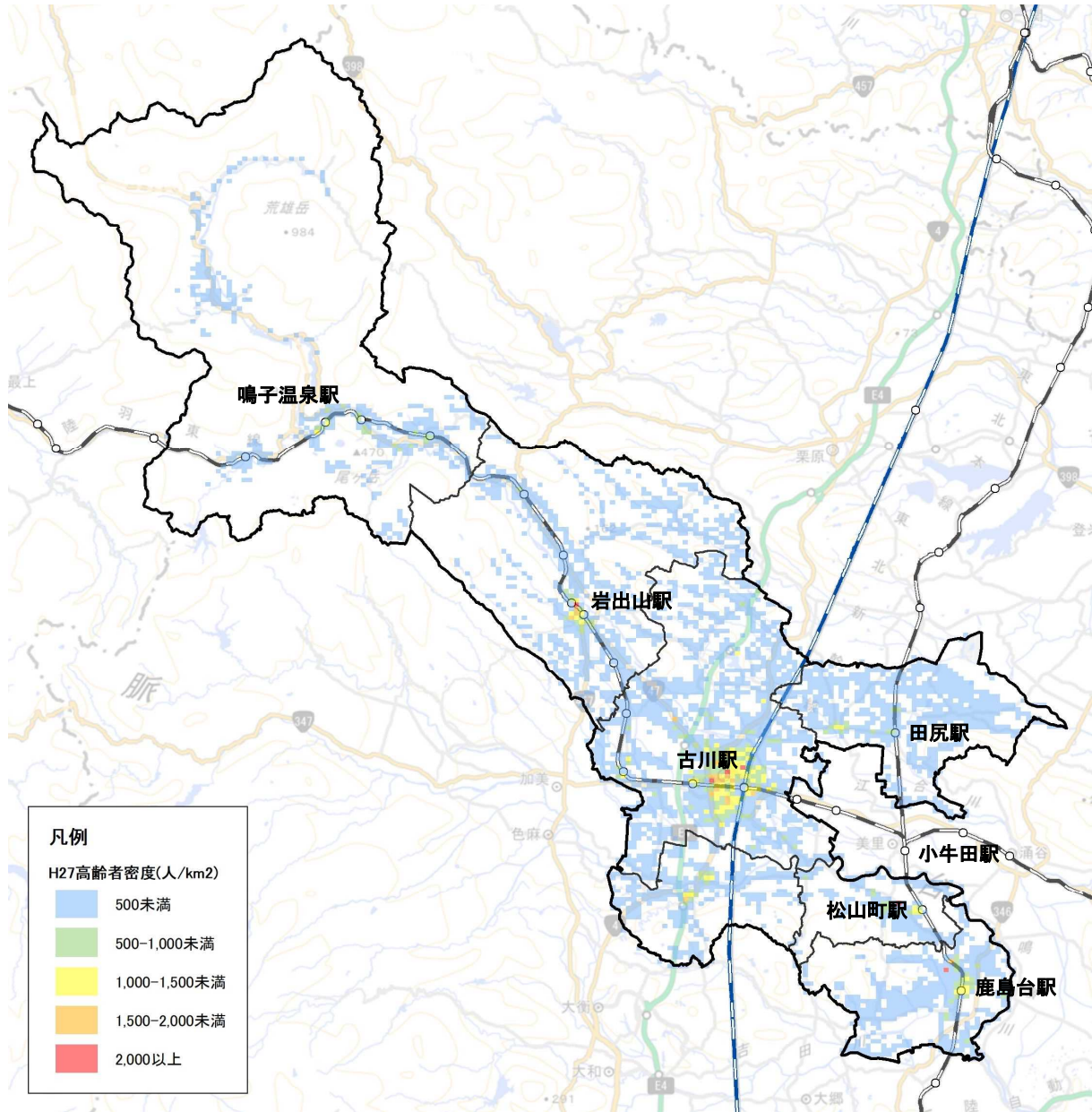


国立社会保障・人口問題研究所 (2020→2040 年推計) より



### 3) 高齢者人口の分布

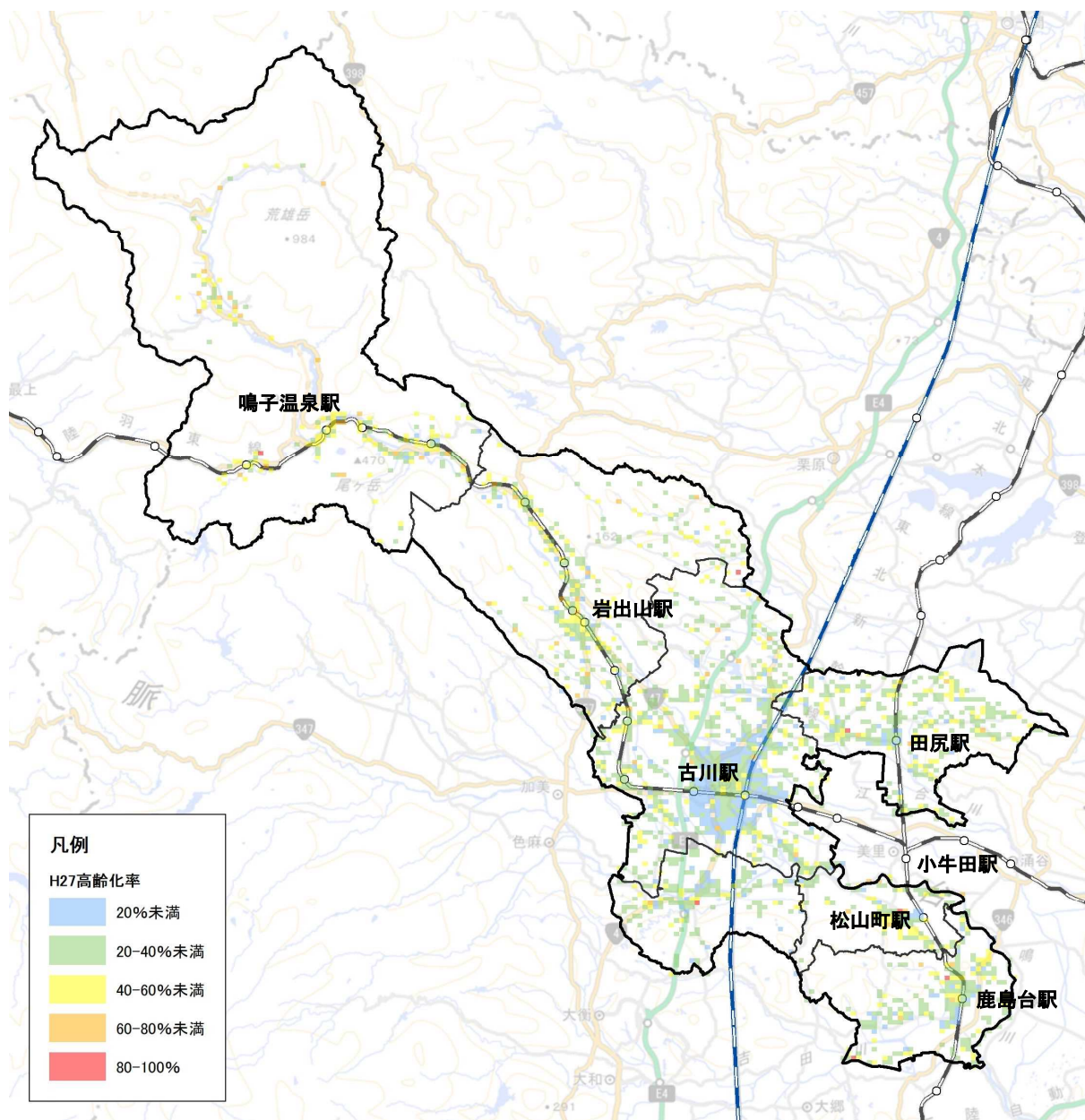
● 高齢者の人口も、総人口と同様、古川地域の中心部に集中するとともに、広く薄く、市域に分布している状況です。



国勢調査 (H27) より

#### 4) 高齢化率の分布

● 高齢化率は、市域全体で高い状況にあります。古川地域の中心部付近では低く、他の地域では高い傾向があります。

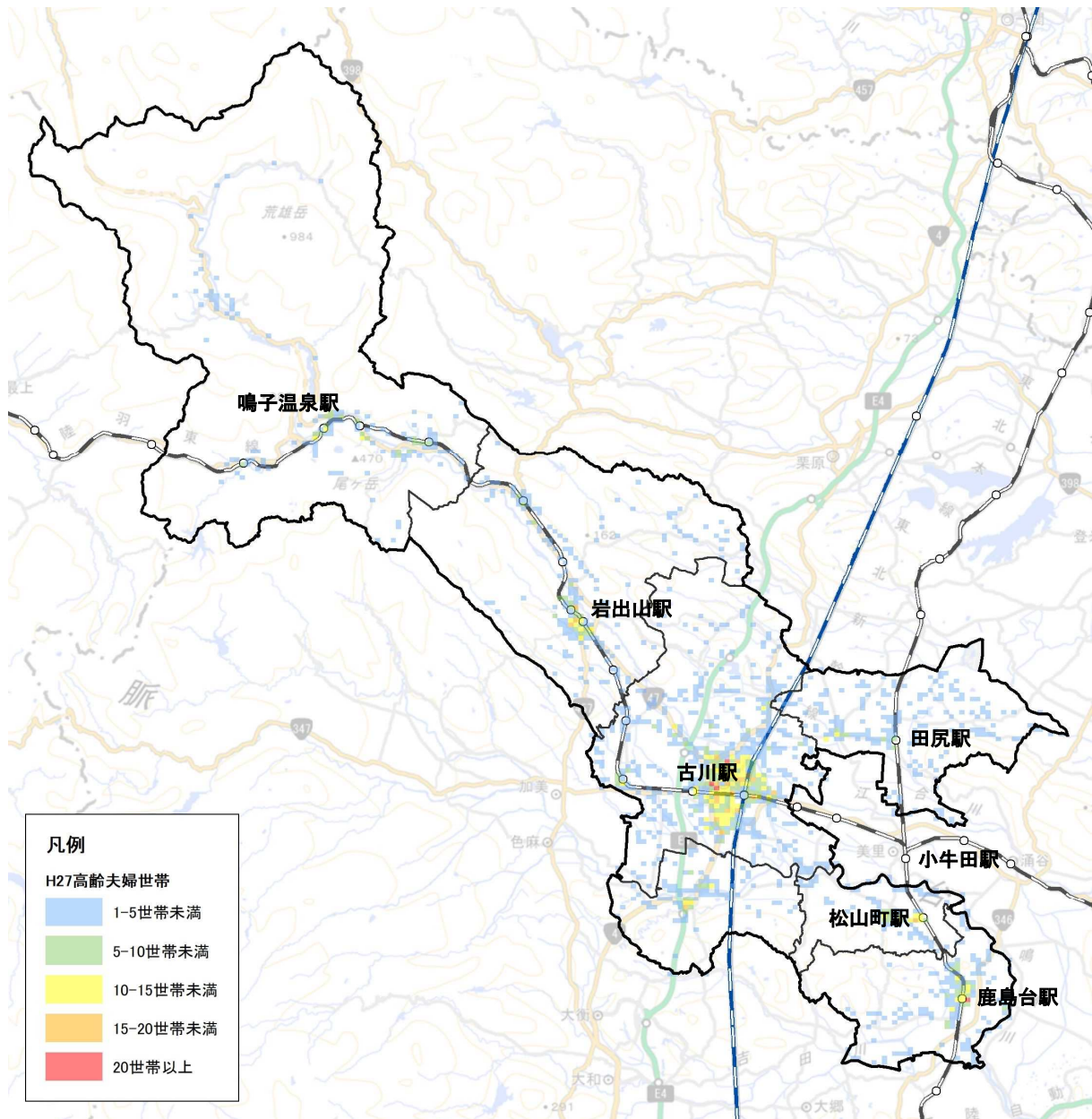


国勢調査 (H27) より



## 5) 高齢者夫婦のみ世帯

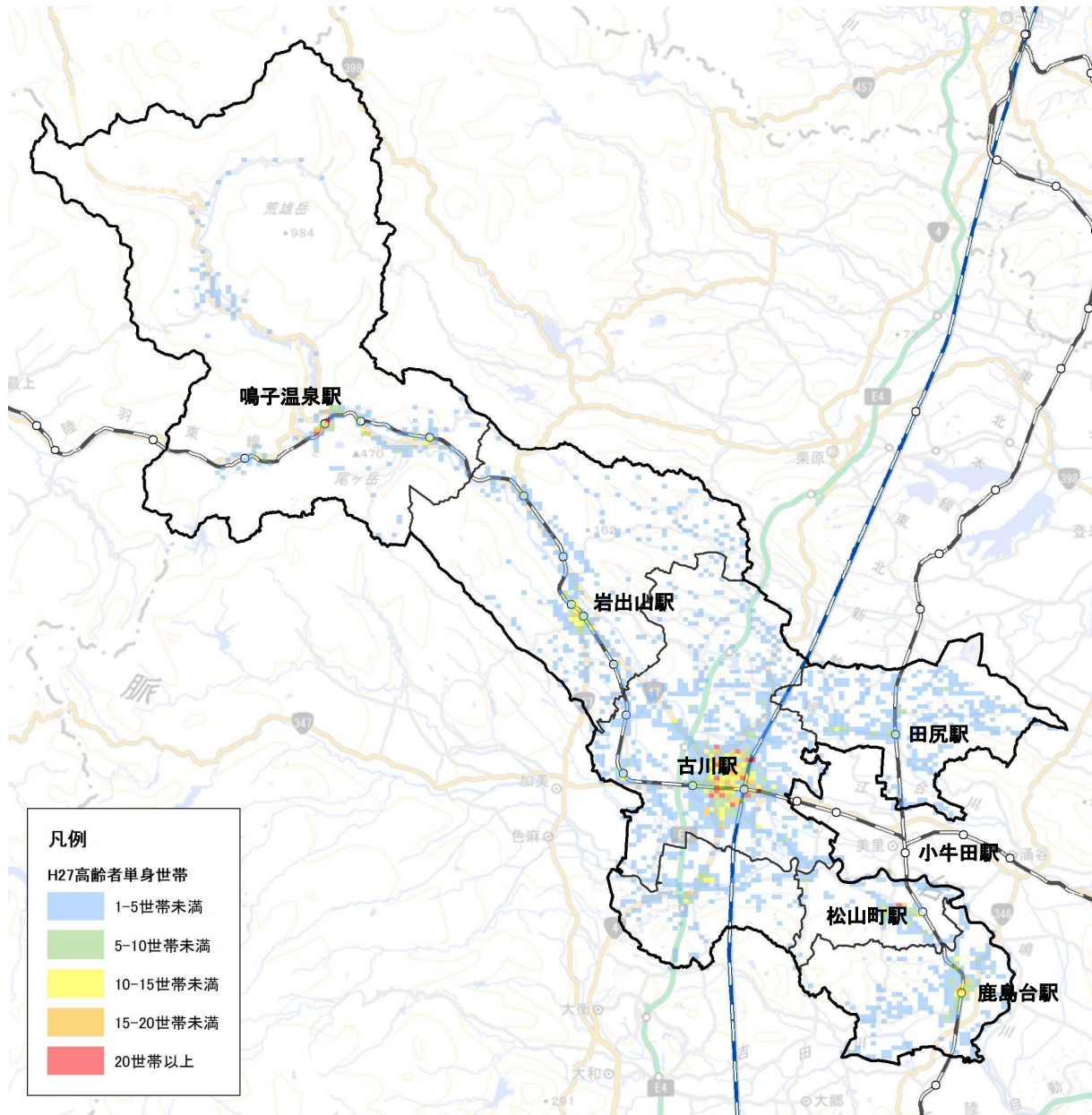
- 高齢者夫婦のみ世帯は、市域の各地に分布しており、人口の少ない地域にも点在している状況です。
- 高齢者のみの世帯であることから、家族等のクルマでの送迎・同乗等ができない人が多い可能性があります。また、免許返納が進められる中、今後そのような人が増加する可能性もあります。



国勢調査 (H27) より

## 6) ひとり暮らし高齢者

- ひとり暮らしの高齢者は、市域の各地に分布しており、人口の少ない地域にも点在している状況です。
- ひとり暮らしの高齢者であることから、クルマでの送迎・同乗等ができない人が多い可能性があります。



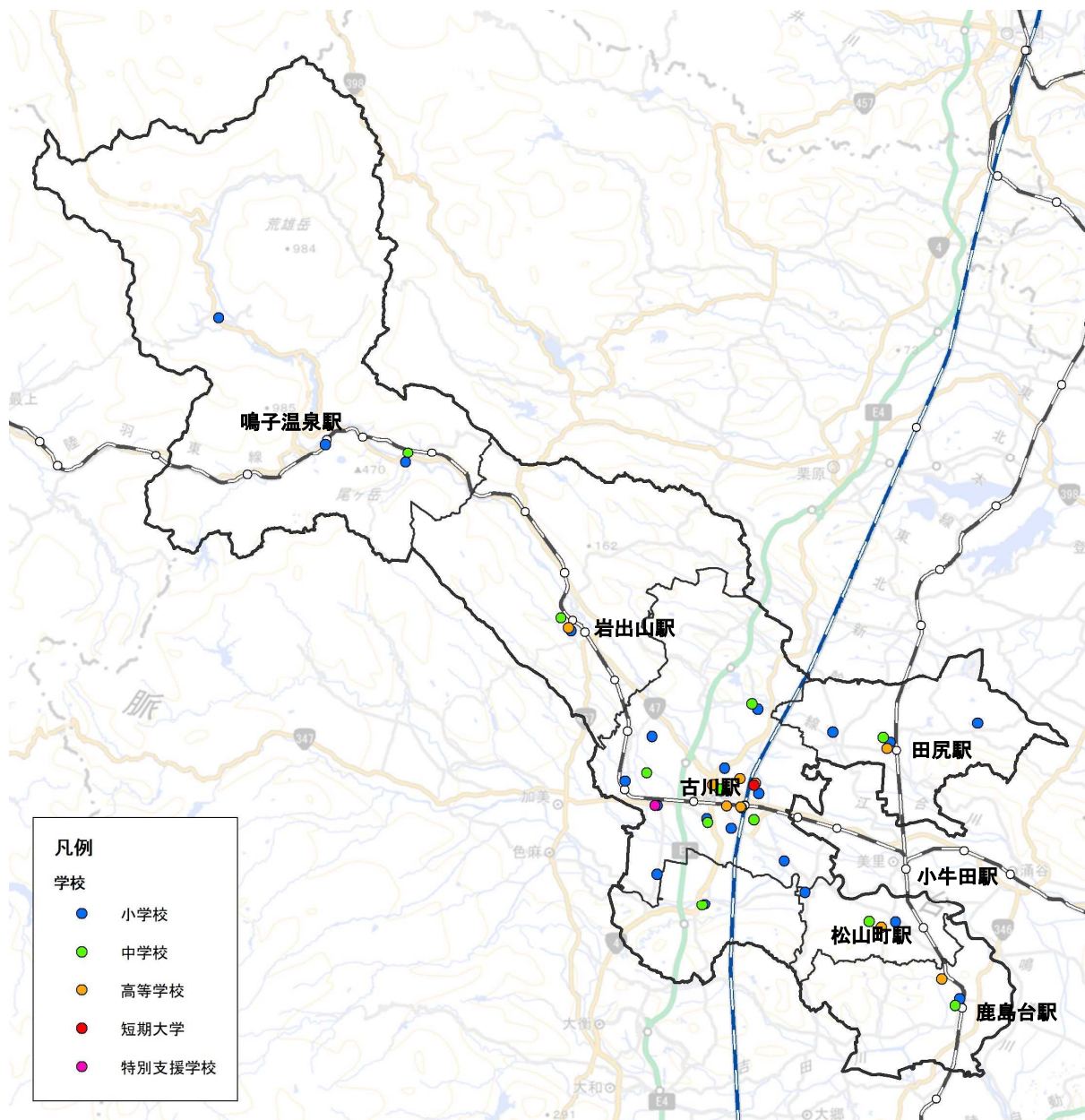
国勢調査（H27）より



## 1-3 主要施設の立地状況

### (1) 学校の立地状況

- 小中学校は、概ね各地域に立地しています。
- 高等学校は、古川地域に 5 校、松山、鹿島台、岩出山、田尻の各地域に各 1 校が立地しています。
- その他に、古川地域には短期大学、特別支援学校が立地しています。



国土数値情報 より

## (2) 店舗の立地状況

- スーパー、薬店などの店舗は、古川地域の市街地周辺に集中して立地しています。また、各地域にも、地域密着型の店舗やチェーン店（ヨークベニマル、ウジエスーパー等）が立地しており、日々の買い物で出かける人が多い状況です。
- 大型の店舗やショッピングセンター等（イオン、リオーネふるかかわ等）は、概ね古川地域に立地しており、各地域の市民が買い物に出かけています。



国土数値情報に情報を追加して作成



### (3) 病院・診療所の立地状況

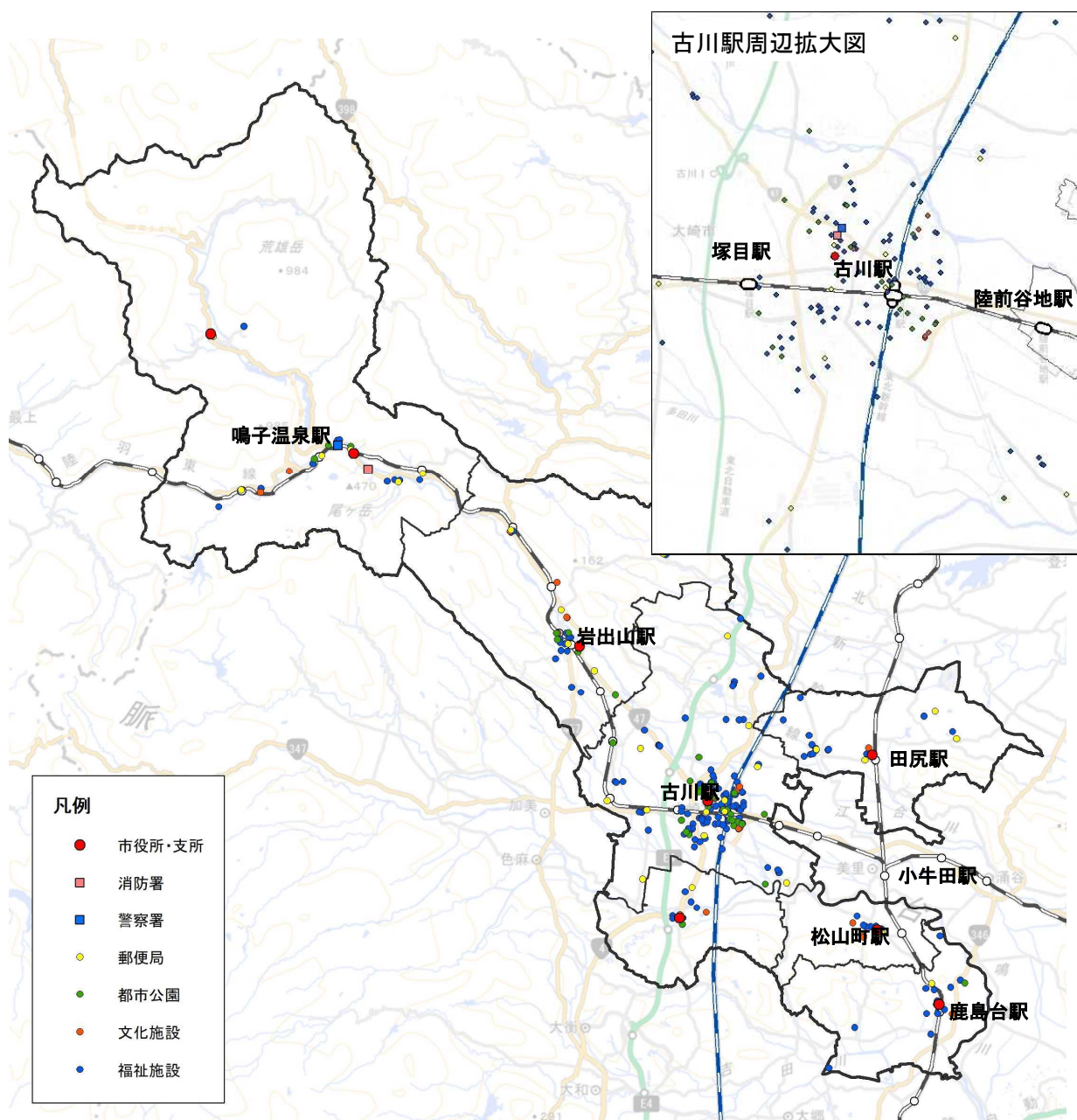
- 病院・診療所は、古川地域の市街地周辺に集中して立地しています。
- 「大崎市民病院」は、古川地域の中心部に立地しており、鹿島台、岩出山、鳴子温泉の各地域に分院、田尻地域に診療所があります。



国土数値情報 より

#### (4) 公共・公益施設の立地状況

- 公共・公益施設は、古川地域に集中して立地しています。
- 市役所本庁舎は古川地域にあり、各地域に総合支所があります。
- 「市役所本庁舎」は、現在の庁舎の近傍に移転し、令和5（2023）年度の供用開始を目指しています。



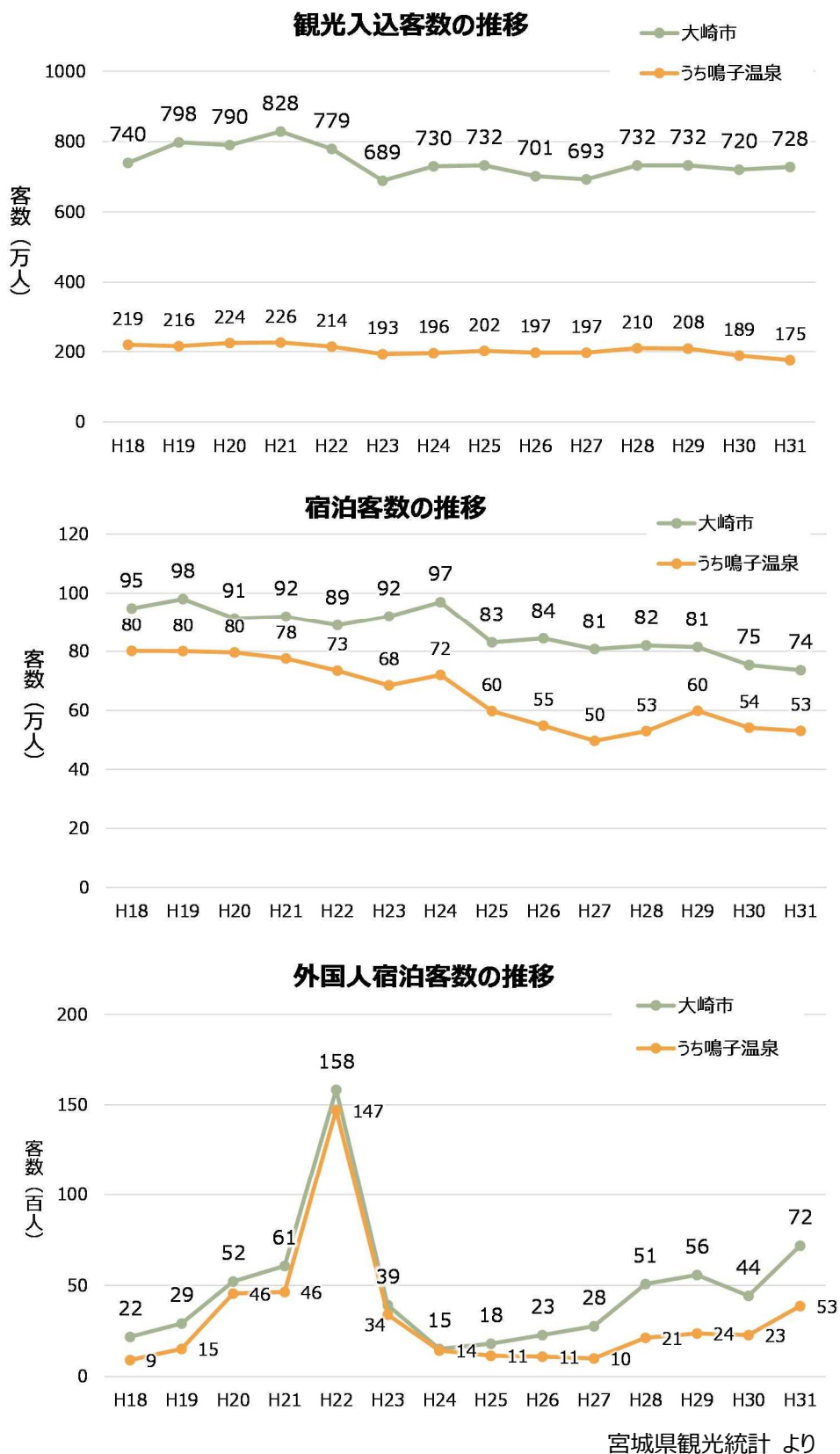
国土数値情報 より





## (2) 観光入込客数の推移

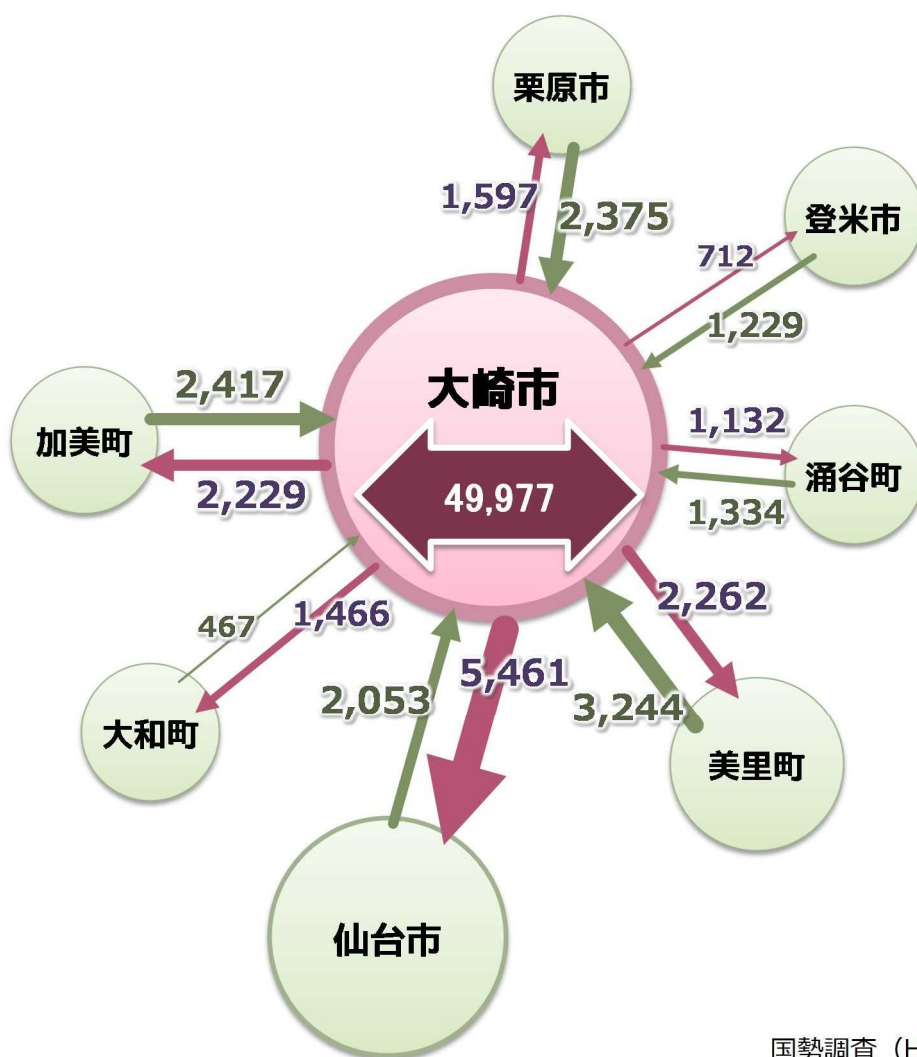
- 本市の観光客は、ほぼ横ばいの状況が続いています。また、宿泊客数は微減傾向となっています。
- 外国人宿泊客は、増加傾向にあります。



## 1-5 市民の移動等の状況

### (1) 通勤・通学の動き

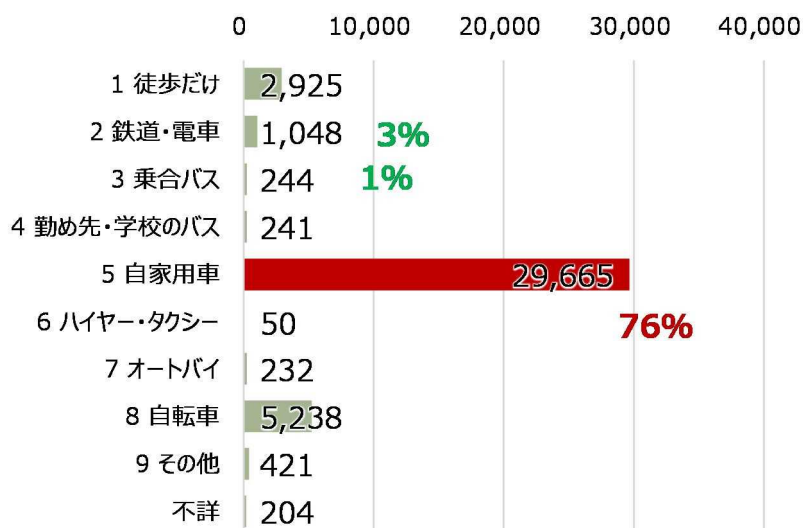
●大崎市民の通勤・通学先は、約7割を市内が占めています。また、1割弱が仙台市に通っています。



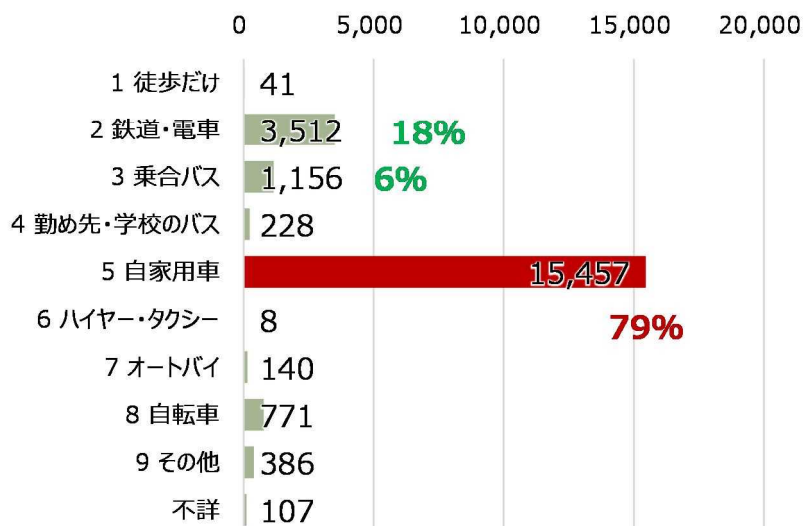
## (2) 通勤・通学の交通手段

- 市民の通勤・通学の交通手段を見ると、市内に通う市民のうち約 8 割をマイカーが占めており、鉄道・バスは極めて少ないのが現状です。
- 市外へ通う市民も約 8 割をマイカーが占めていますが、鉄道で通う市民が約 2 割います。

### 市内に従業・通学



### 市外に従業・通学



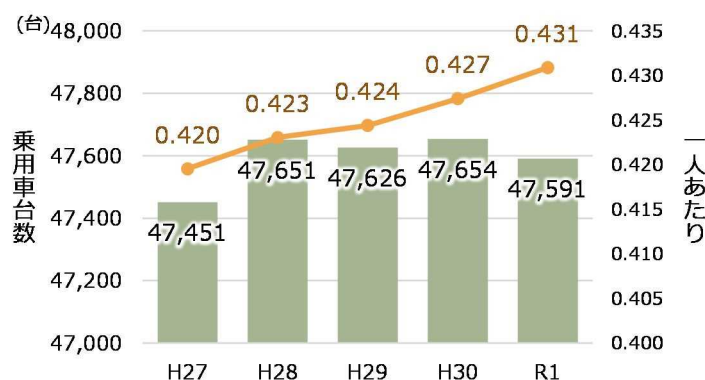
国勢調査（H22）より



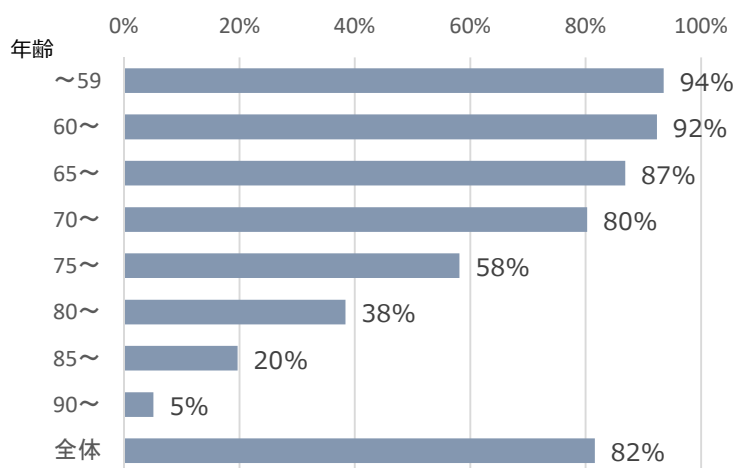
### (3) 自動車・免許保有状況

- 本市の人口が減少している中、市民の自動車保有台数はほぼ横ばいであり、1人当たりの自動車保有台数は微増傾向にあり、現在は0.43台(2.3人につき1台)のクルマがある状況です。
- 多くの市民が運転免許を持っており、高齢者の運転免許保有率も高く、70代でも8割が保有しているなど、免許返納はあまり進んでいません。

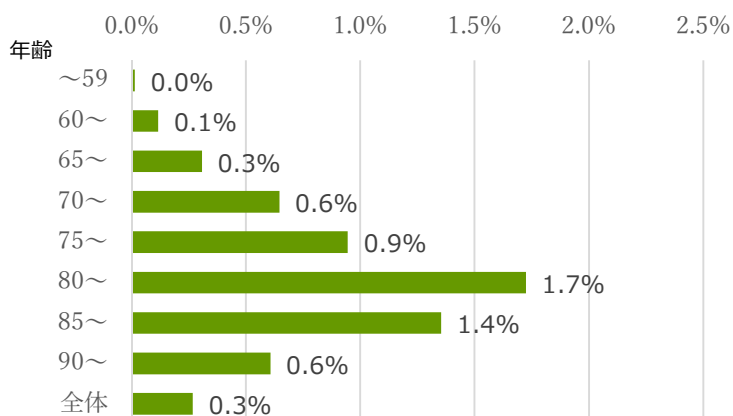
自動車保有台数



運転免許保有率 (R1年)



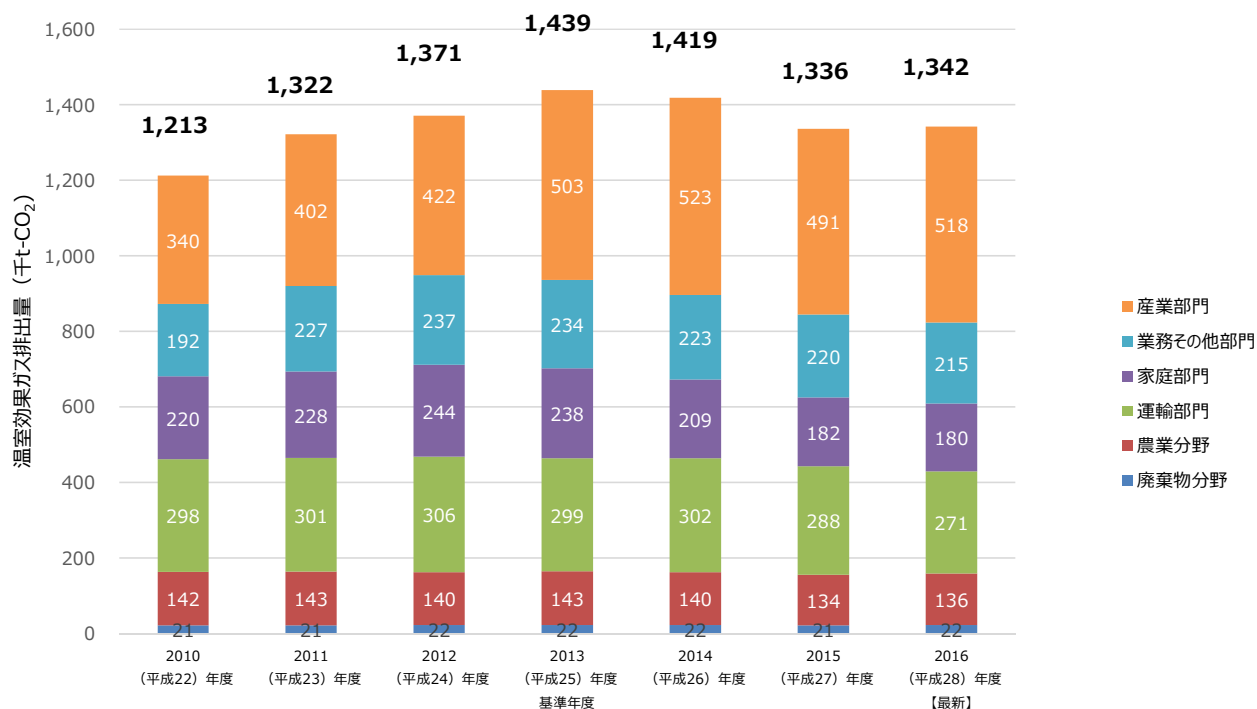
運転免許 自主返納者の割合 (R1年)



宮城県警資料 より

## (4) 地球環境面

- 本市のCO<sub>2</sub>排出量のうち、約2割を運輸部門が占めている状況であり、「大崎市環境基本計画」によれば、公共交通が便利に利用できない地区もあり、市民の「マイカー利用」が多いことも一つの要因と考えられています。



大崎市環境基本計画・大崎市環境保全課資料 より

## (5) 健康面

- 「大崎市健康増進計画」では、一日に1時間以上歩く人の増加を目指していましたが、さほど増えていない状況です。公共交通があまり便利でないため「マイカーの利用」が多く、歩かないことも要因の一つと考えられています。

評価指標	実績値			目標値	達成度	
	策定時	中間（H25）	最終（H29）			
①歩行時間を増やします						
一日の歩行時間が1時間以上の人の割合（健康増進計画最終評価にかかる健康調査より）	40～64 歳男性	31.5%	31.7%	20.4%	40%	▲
	40～64 歳女性	27.6%	29.4%	20.5%	40%	▲

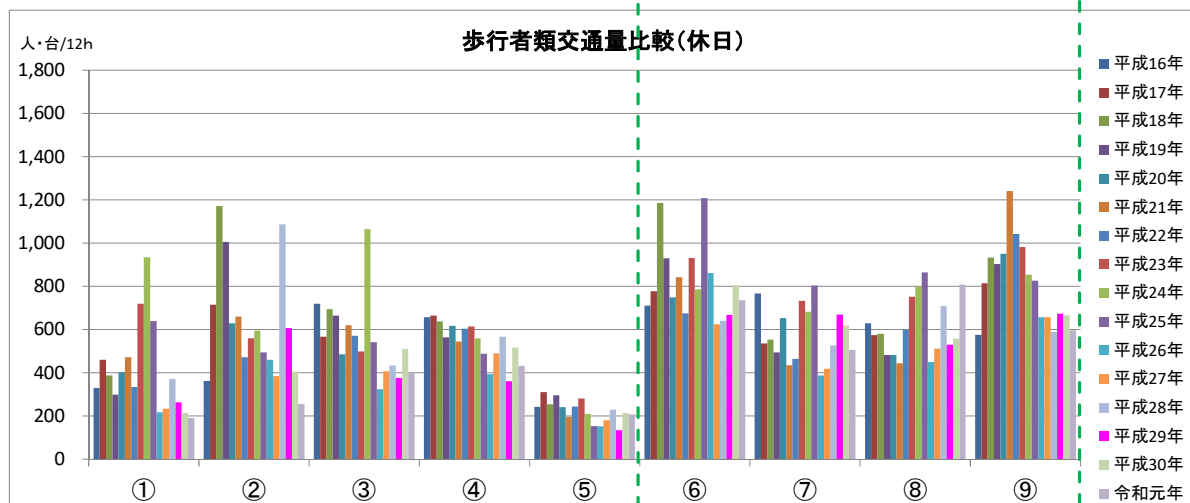
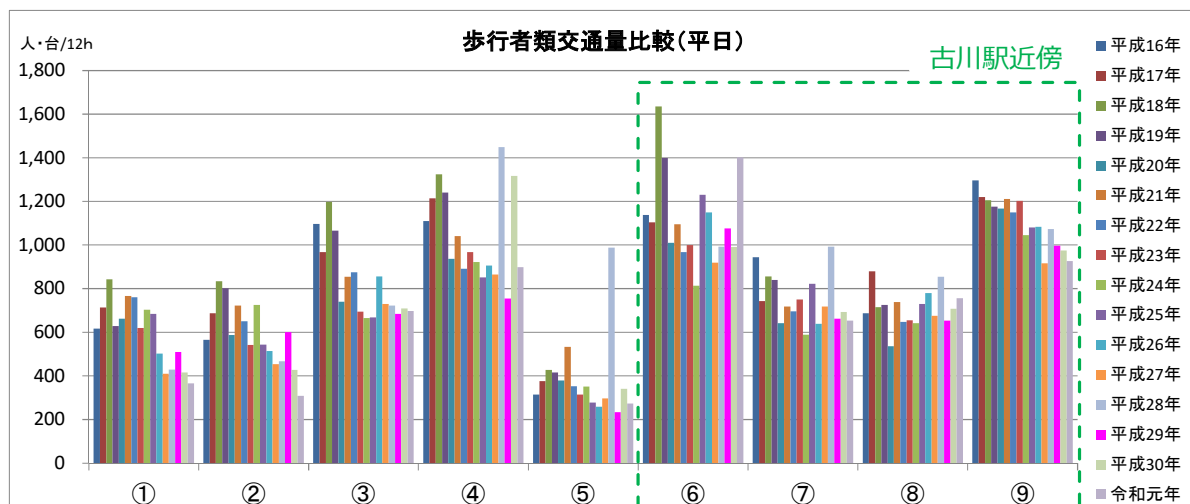
第2次大崎市健康増進計画 より

## (6) まちなか（駅前周辺等）のにぎわい

- 古川地域の中心市街地の歩行者は、古川駅近傍で多い傾向がありますが、歩行者類（歩行者・自転車）交通量は年々減少しています。目的地へドアトゥドアで行けるクルマの利用者が多くなることで、まちなかにのにぎわいが失われることが危惧されます。



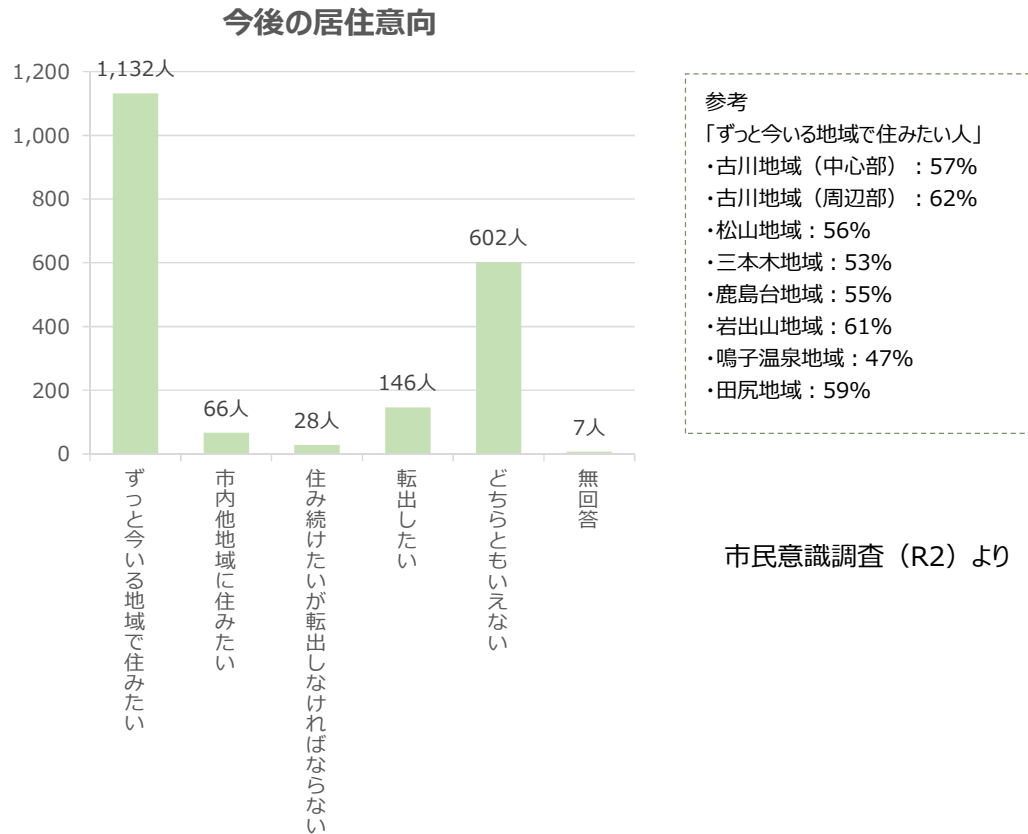
- ①大崎市役所 駐車場前
- ②醸室前
- ③旧ショッピングプラザ前
- ④吉野作造生家跡パーク前
- ⑤金谷不動尊前
- ⑥リオーネふるかわ  
駐車場入口(東側断面)
- ⑦旧合同庁舎前
- ⑧喜藤印舗前
- ⑨リオーネふるかわ  
立体駐車場裏交差点



大崎市中心市街地活性化事業動向調査 より

## (7) 市民の定住意向

●市民の定住意向は高く、特に現在の地域に住み続けたいという市民が多い状況です。鳴子温泉地域が半数弱でやや低くなっています。

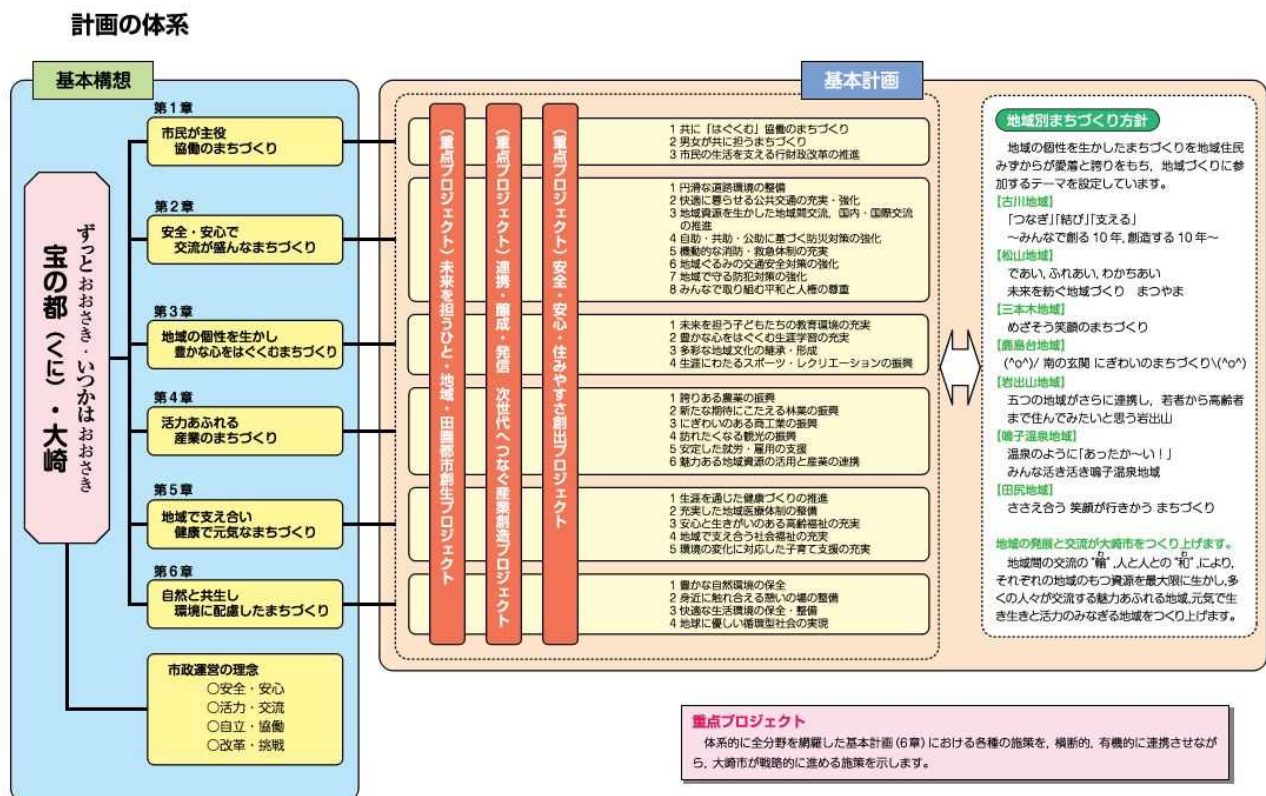


## 2 大崎市が目指す姿

まちづくりの最上位計画である総合計画において本市が目指す姿、関連計画における公共交通や人の移動に関わる取り組みの方向性等は以下の通りです。

### 2-1 第2次大崎市総合計画

- 将来像として、「宝の都（くに）・大崎 ～ずっとおおさき・いつかはおおさき～」を掲げ、市民が快適に暮らし続けられるまちを目指しています。
- 取り組みの一つとして、「快適に暮らせる公共交通の充実・強化」が挙げられ、公共交通を利用して各地域に移動できること、分かりやすく、利用しやすい公共交通ネットワークが形成されていることが望ましいとされています。

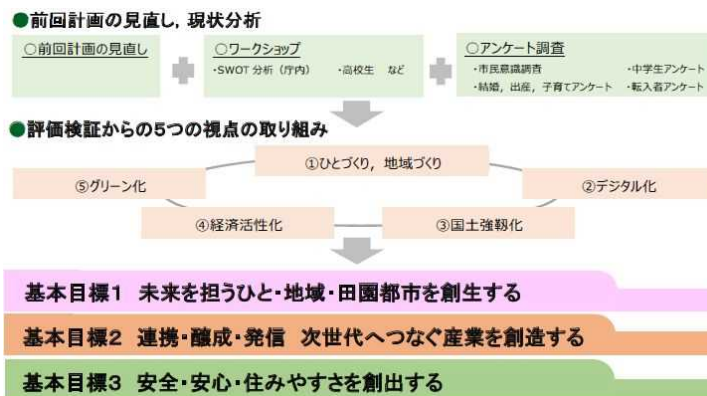


第2次大崎市総合計画 より



## 2-2 第2期宝の都（くに）・おおさき市地方創生総合戦略

- 人口の現状と将来展望を示す人口ビジョンを策定し、「本市における地方創生」に向け、各分野における目標や基本的方向、具体的な施策がまとめられており、公共交通に関する具体的な施策として、将来にわたる地域公共交通の維持・確保を図ることが挙げられています。



第2期宝の都（くに）・おおさき市地方創生総合戦略 より

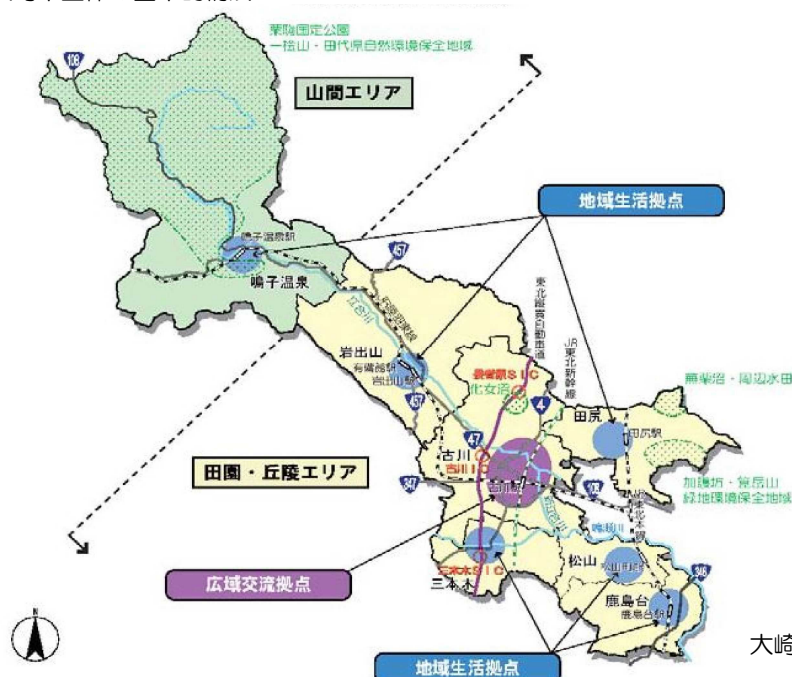
## 2-3 その他関連計画等

その他、本市において人の移動等に関連する計画等として以下があります。

### ○大崎市都市計画マスタープラン

- ・「持続可能な都市づくり」を基本理念とし、定住と交流の役割・機能を併せ持つ「定住と交流の拠点都市」を目標都市像として定めています。
- ・都市づくりの重点テーマとして「集約型市街地の形成」を定め、各地域において集約型市街地を配置・設置し、古川地域を中心とする公共交通網を配置・整備することで、各集約型市街地相互の連携を確保していくこととしています。

#### ●大崎市全体の基本的構成



大崎市都市計画マスタープラン より

### ○大崎市立地適正化計画

- ・『大崎市都市計画マスタープラン』に掲げている集約型市街地の形成に向けて、「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の都市構造の形成に資する具体的な区域や施策を定める計画となっています。

### ○第2次大崎市環境基本計画

- ・「豊かな自然や田園環境の中で人と自然が共に生き、健康的で持続可能な循環・共生型の社会の実現」を目指し、4つの環境分野のうち、地球環境分野において「利用しやすい公共交通ネットワーク等の充実」を施策の方向の1つとしています。

### ○大崎市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

- ・温室効果ガス削減目標達成に向け、「コンパクトなまちづくりの推進と利用しやすい公共交通ネットワーク等の充実」を基本方針のうちの1つとしています。

### ○大崎市観光振興ビジョン

- ・観光振興に向けた3つの戦略のうち、大崎ならではのおもてなしを目指した戦略のもと、観光客や市民双方にとって快適な交通環境をつくる取り組みを記載しています。

### ○第2次大崎市健康増進計画

- ・市民の健康づくり施策を推進するために策定し、取り組みの1つとして、自家用車で移動している人が多く、歩行時間が減少していることから、1日の目標歩数を示しています。

### ○大崎市過疎地域持続的発展計画

- ・過疎地域である岩出山地域、鳴子温泉地域及び田尻地域について、現況と問題点を整理している中で、公共交通に関する対策として、「地域内のすべての公共交通が一体となって機能する持続可能な公共交通ネットワークの構築に努める」と記載しています。

### ○第2次大崎市住生活基本計画

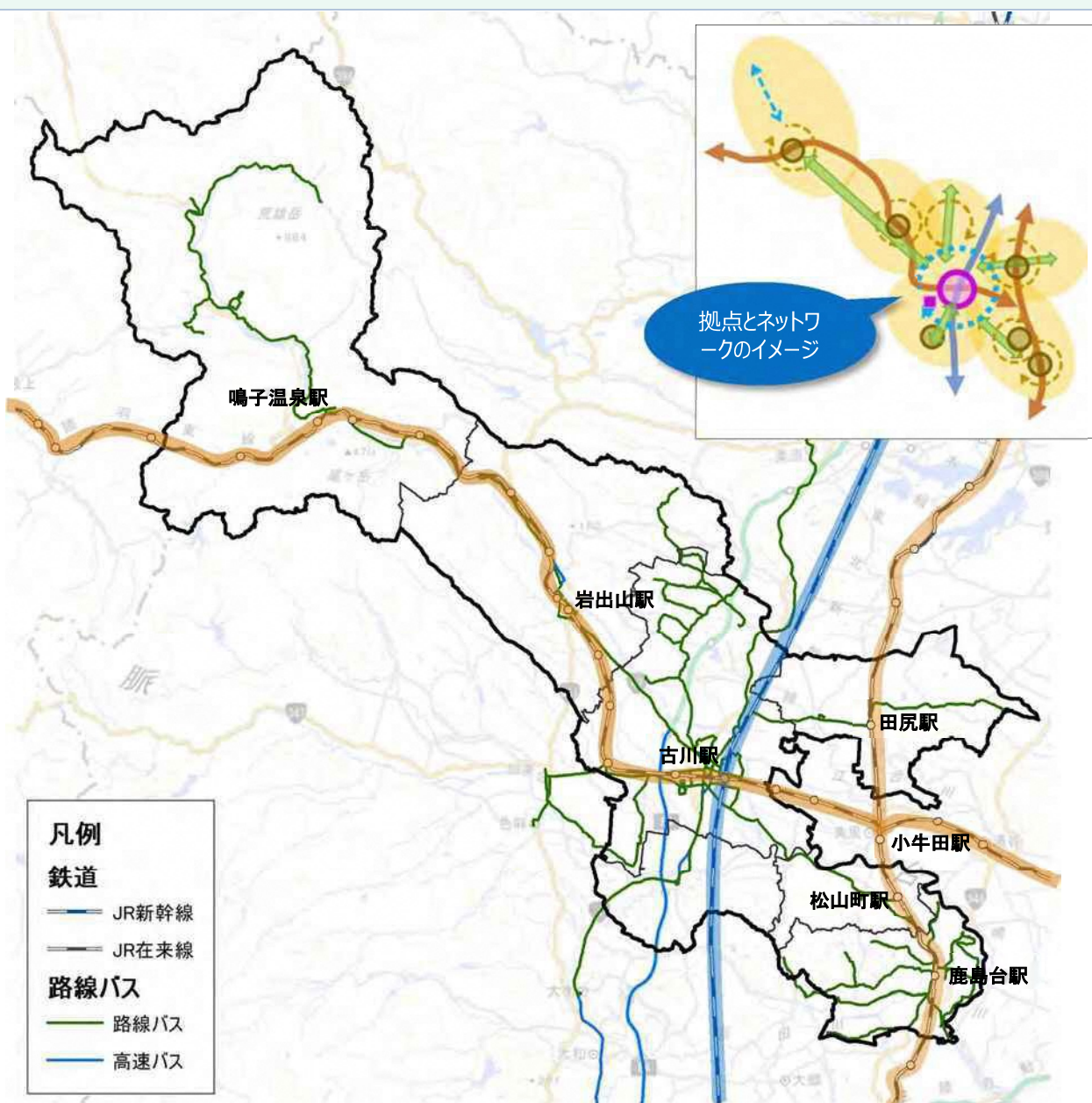
- ・住生活の安定確保と向上のための指針として策定したもので、公共交通に関して、安定的で持続可能な公共交通の体制整備を図るなどの取り組みを記載しています。

## 3 公共交通等の現状

### 3-1 公共交通の状況

#### (1) 公共交通ネットワーク

- 市内の公共交通の基軸は鉄道であり、市内6地域の拠点を通り、広域・地域間移動を担っています。  
(ただし、JR陸羽東線とJR東北本線は、市街で結節しており、三本木地域に駅はありません。)
- 市中心部の移動をバス（市民バス、中心市街地循環便、市営バスなど）、鉄道、バスが運行していない各地域内の移動を地域内公共交通（デマンド型、定時定路線型、路線不定期型）等が担っています。
- 古川から仙台、鳴子から仙台まで高速バスが運行しています。

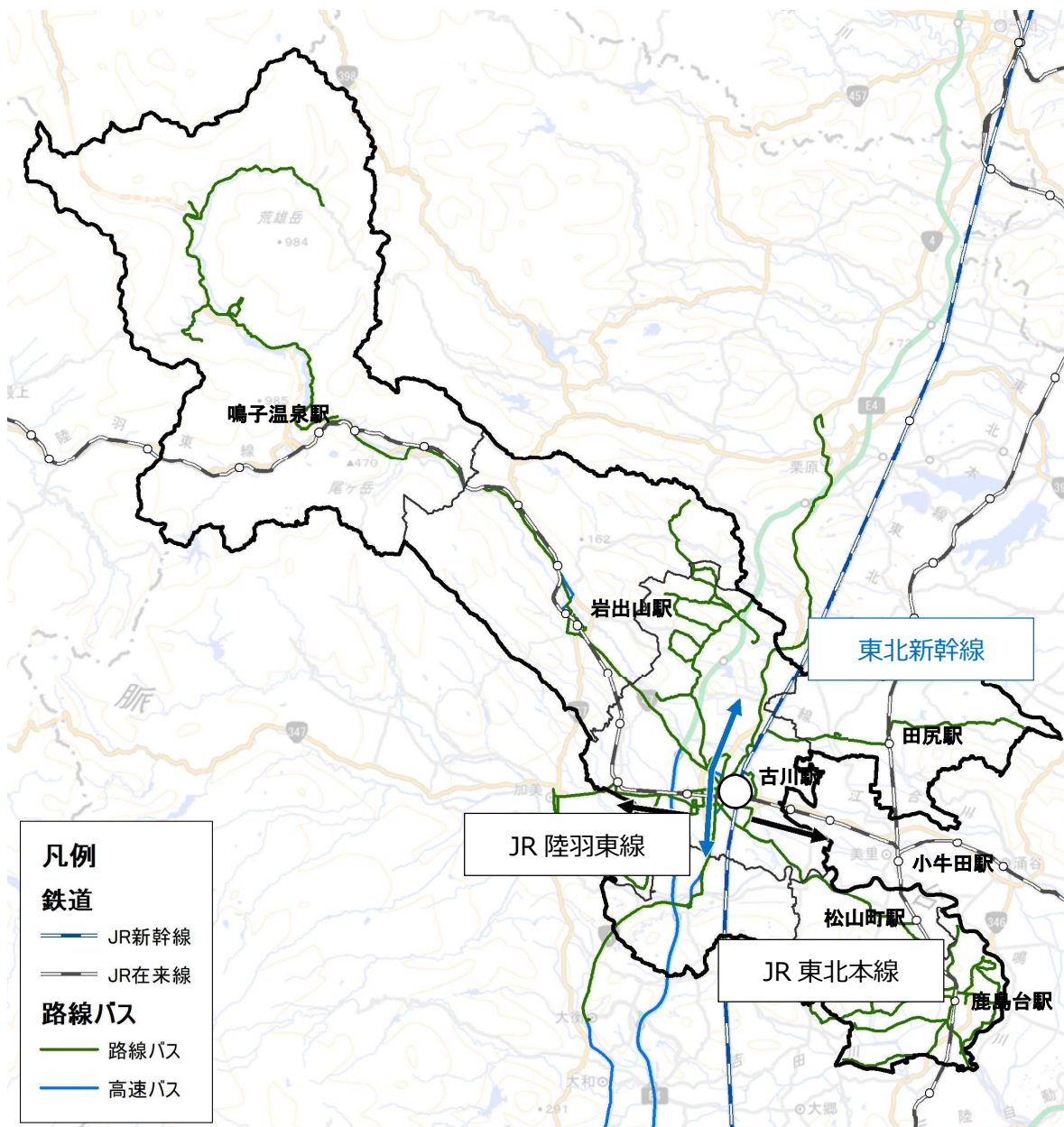


国土数値情報 より



## (2) 鉄道の状況

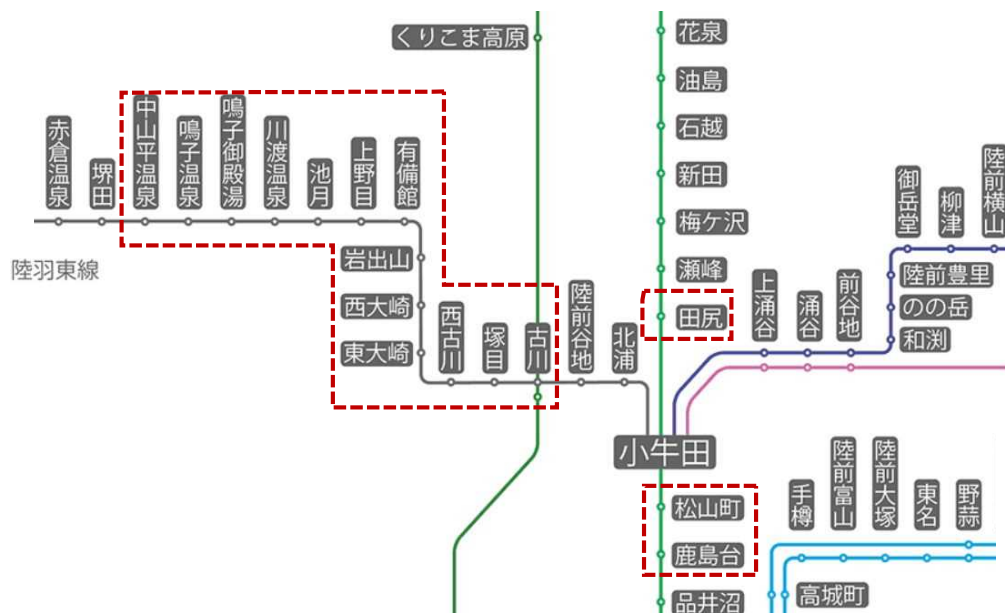
- 本市の鉄道は、東北新幹線が首都圏と近隣地域を結び交通の動脈となっており、市内に古川駅があります。JR 陸羽東線は、JR 東北本線と市外で結節し、本市内の東西方向の主軸として運行しています。



国土数値情報 より

【市内の鉄道駅】

<b>東北新幹線</b>	古川駅
<b>JR 東北本線</b>	鹿島台駅、松山町駅、田尻駅
<b>JR 陸羽東線</b>	古川駅、塚目駅、西古川駅、東大崎駅、西大崎駅、岩出山駅、有備館駅、上野目駅、池月駅、川渡温泉駅、鳴子御殿湯駅、鳴子温泉駅、中山平温泉駅



JR 東日本資料より

【古川駅の運行（新幹線、在来線）状況】

■ 東北新幹線

	方面	運行本数（平日・休日）	運行時間
<b>東北新幹線</b>	一ノ関・盛岡方面（下り） ※一部、新青森・新函館方面、 角館・大曲・秋田方面	19 便・18 便	6 時台～22 時台
<b>東北新幹線</b>	仙台・福島・郡山・宇都宮・ 東京方面（上り）	20 便・20 便	7 時台～22 時台

■ 在来線

	方面	運行本数	運行時間
<b>陸羽東線</b>	鳴子温泉・新庄方面（下り）	14 便・14 便	6 時台～22 時台
<b>陸羽東線</b>	小牛田方面（上り）	22 便・22 便	6 時台～22 時台

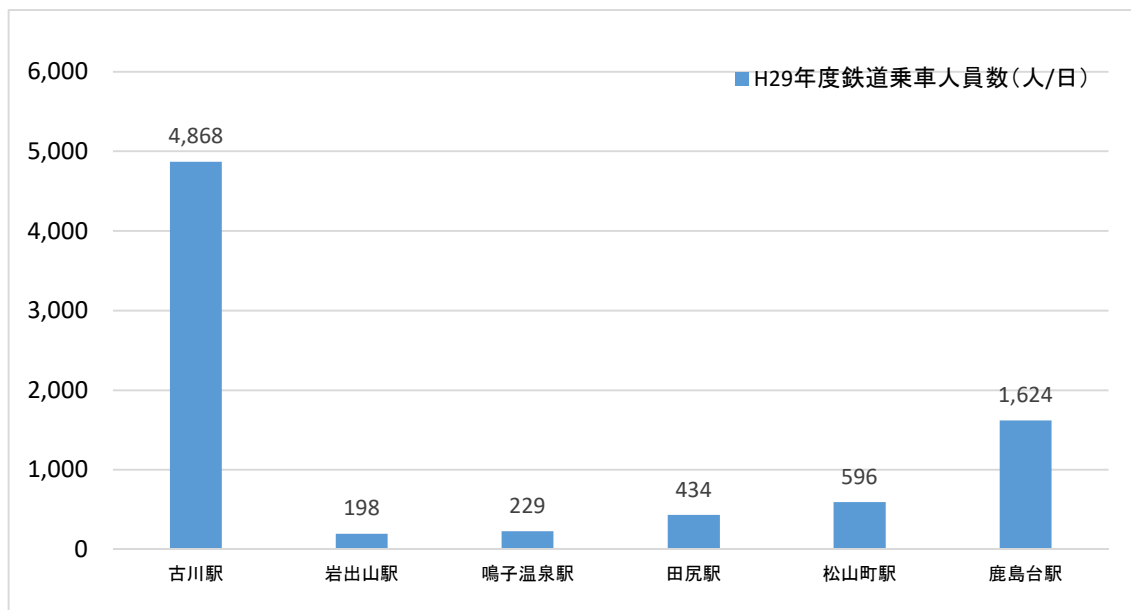
(R4.1 月時点)

### (3) 鉄道の利用状況

#### 1) 各拠点駅の利用状況

- 本市の中心部にある古川駅が突出して利用者が多く、市の主要駅となっており、駅前広場にはバス、タクシー等の交通結節機能があります。
- 次いで利用者が多い駅は鹿島台駅です。岩出山駅、鳴子温泉駅、田尻駅、松山町駅は市内の各地域の中心駅ですが、いずれも1日当たり600人以下となっています。

#### ●拠点駅別1日当たりの乗車人数の比較（H29年度）



JR 東日本資料より



古川駅 駅前広場

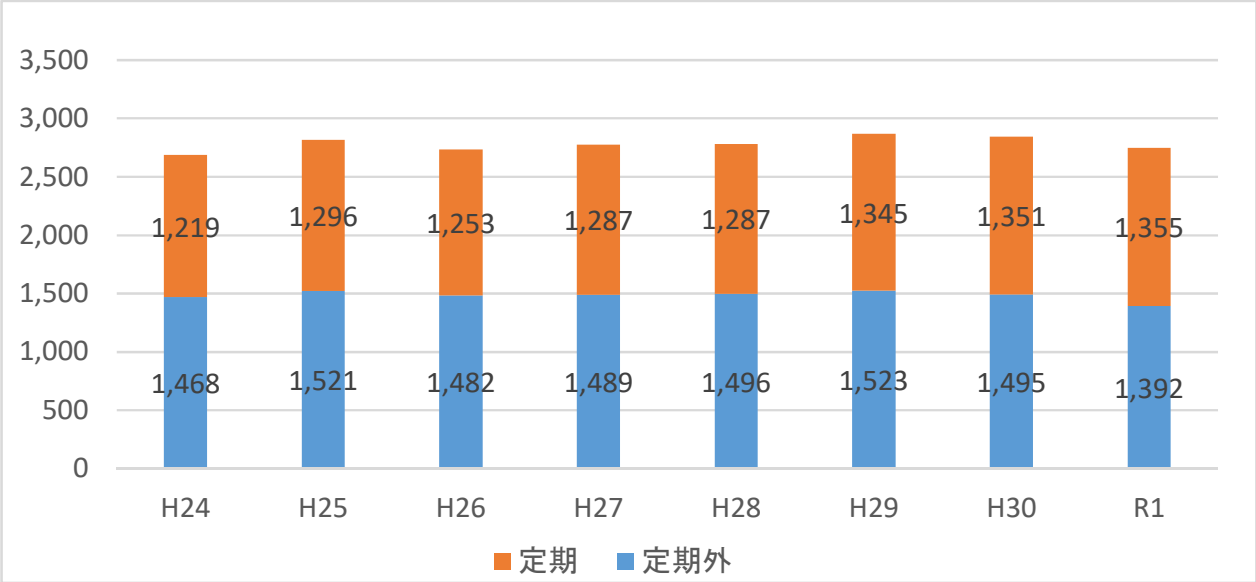


バス乗り場の案内（古川駅構内）

2) 新幹線の利用状況

●東北新幹線の年度別の1日当たりの利用者数は2,700人程度で、ほぼ横ばいであり、定期利用者が多く、基礎調査時には古川駅と仙台駅等の間を利用する人が多く見られました。

●東北新幹線古川駅の1日当たり利用者数



JR 東日本 HP より

## （４）路線バスの状況

### １）市民バス

- 市民バスは、本市及び関係市町村が（株）ミヤコーバスへ補助を行い、運行しています。
- 市民バスは、概ね古川地域の市街地から各地域をつないで運行しています。多くの路線が、古川駅に発着しており、清滝線を除く路線が、大崎市民病院に発着しています。（１日２便程度）
- 運行日については、古川線（栗原市民バス）、三本木大衡線は毎日運行、高倉線は月～土曜日運行となっており、その他の路線は平日のみの運行となっています。
- 運賃については、初乗り 100 円から 500 円を上限とした距離制運賃により運行しています。

路線	起終点	主な経由地	運行日	便/日 (往・復)	運賃（円）
鳴子線	古川駅前～鳴子温泉駅前	川渡温泉駅、 池月駅	月～金	５・５	100～500
大貫線	古川駅前～下長根	田尻駅	月～金	４・４	100～500
松山鹿島台線	古川駅前～鎌田記念ホール	松山町駅、 鹿島台駅	月～金	５・６	100～500
宮沢真山線	古川駅前～真山御上		月～金	４・４	100～500
高倉線	古川駅前～矢越		月～土	４・４	100～500
三本木大衡線	古川駅前～大衡村役場前		毎日	平日 ６・８ 休日 ４・５	100～500
清滝線	古川駅前～鴻ノ巣	清滝地区、 宮沢地区	火・金	１・２	100～500
古川線 (栗原市民バス)	古川駅前～栗原中央病院		毎日	平日 ８・９ 休日 ５・５	100

(R2 年度時点)



市民バス車両



## 2) 市民バス－中心市街地循環便

- 中心市街地循環便は、古川地域の市街地内の交通手段として、北側循環便、南側循環便、シャトル便が運行しています。
- 運行日については、平日のみの運行となっています。
- 運賃については、100 円で利用でき、1 日フリー乗車券は 200 円で利用できます。
- 起終点の JR 古川駅前では、JR 各路線やバス事業者路線と連絡し、公共交通ネットワークを構築するうえで、重要な役割を担っています。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により、運行を維持・確保する必要があります。

路線	起終点	主な経由地	運行日	便/日 (往・復)	運賃 (円)
中心市街地循環便	古川駅前～大崎市民病院等 ～古川駅前	古川地域内	月～金	北側 5・3 南側 3・4 シャトル 5	100 (※1 日フリー乗 車券は 200 円)

## 3) 市営バス・事業者路線

- 鳴子温泉地域の市営バス（鬼首線）は、鬼首地区の地域住民や観光客の交通手段として運行しています。
- (株) ミヤコーバスの事業者路線である色麻線の一部の便は、大崎市民病院を経由して運行しています。
- 運行日については、市営バス、色麻線は毎日運行となっています。
- 運賃については、市営バスは初乗り 200 円から 500 円を上限とした距離制運賃、色麻線は初乗り 160 円から 710 円を上限とした距離制運賃（一部 100 円区間あり）により運行しています。

路線	運行主体	起終点	主な経由地	運行日	便/日 (往・復)	運賃 (円)
鳴子温泉地域 市営バス (鬼首線)	大崎市	鳴子温泉駅 ～田野原	鳴子温泉駅、 ペンション村	毎日	平日 6・6 休日 6・5	200～500
色麻線	(株) ミヤコーバス	色麻町役場前 ～古川駅前	大崎市民病院	毎日	5・5	160～710 (一部の区間は 100 円)

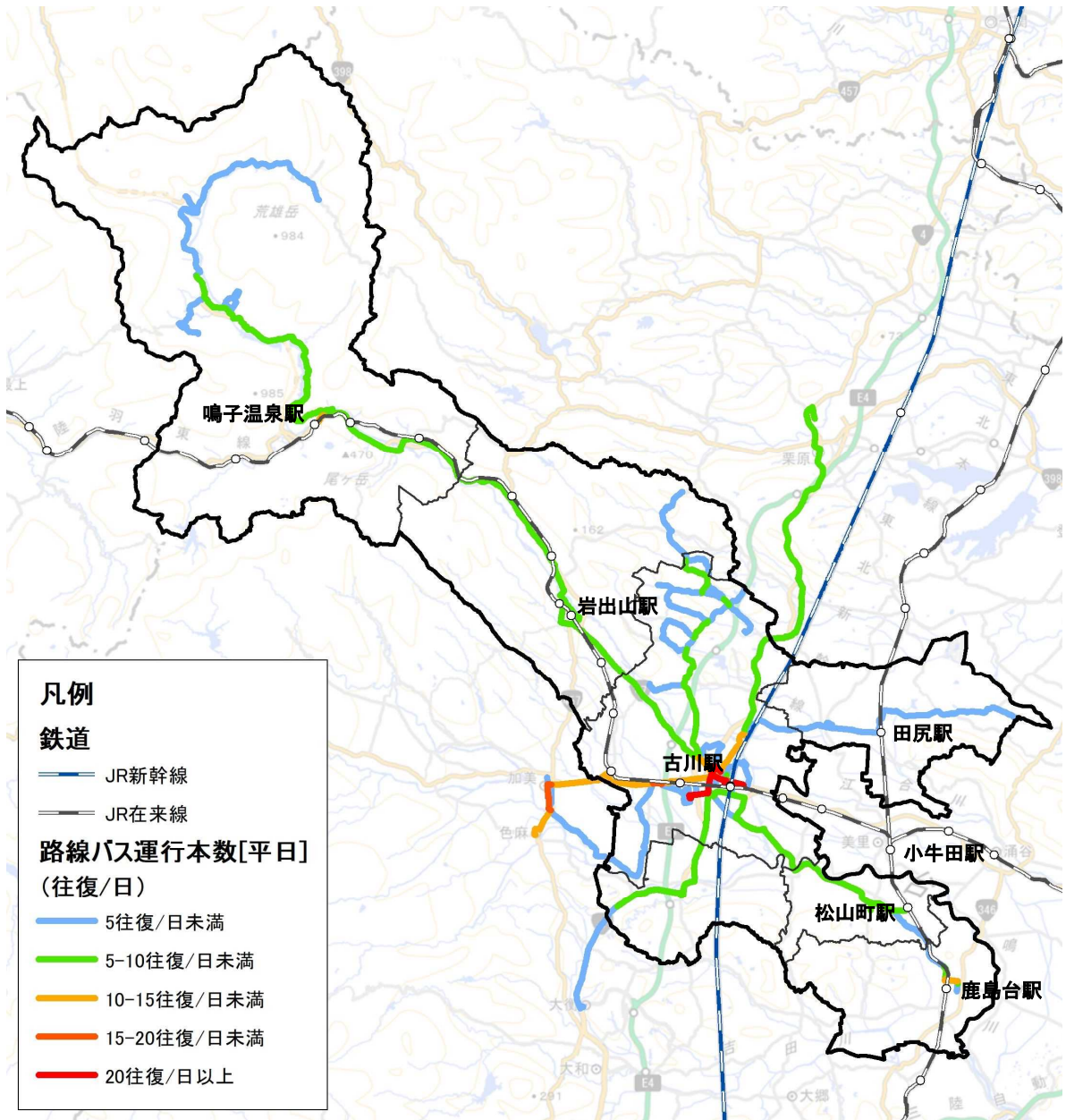
(R2 年度時点)



市営バス（鬼首線）

#### 4) バスの運行本数

●バスの運行本数については、古川駅周辺の運行本数が多く、古川駅から離れた地域では運行本数が少ない状況です。



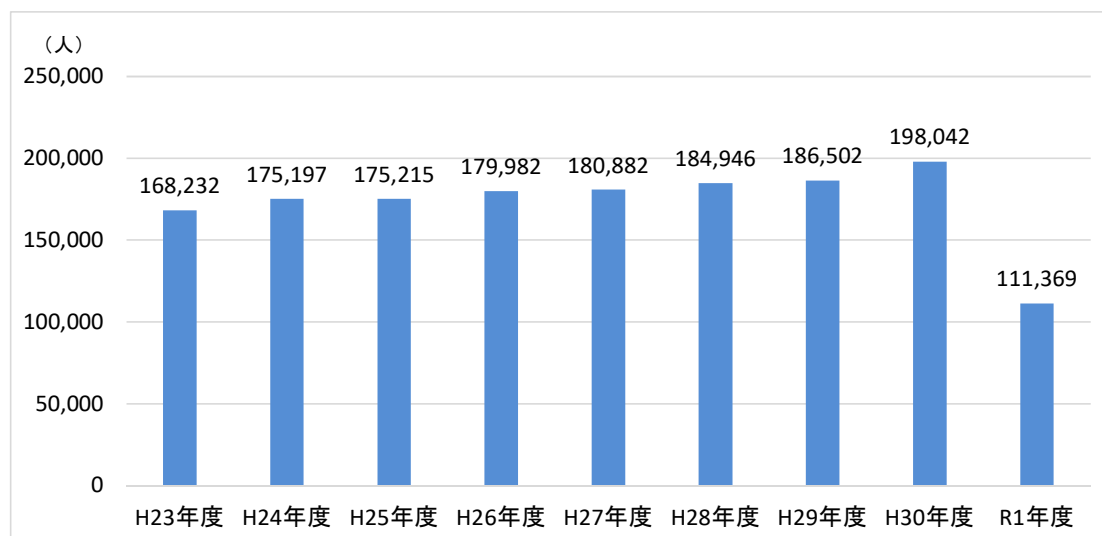
国土数値情報 より

## (5) 路線バスの利用状況

### 1) 市民バスの利用状況

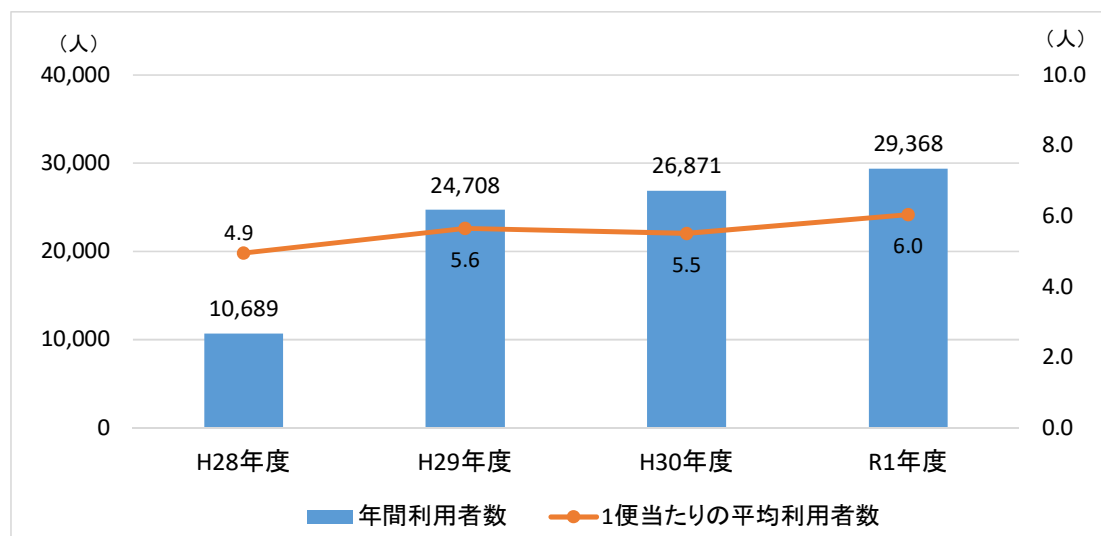
- 市民バスの利用者数は微増傾向にあります。なお、R1年度は、古川線を移管した影響で、大きく減少しています。
- 中心市街地循環便は年々増加傾向にあり、R1年度は2万9000人程度となっていますが、1便当たり6人以下の利用にとどまっています。

#### ●市民バスの利用者数（年度別）



※中心市街地循環便を除く

#### ●中心市街地循環便の利用者数（年度別）

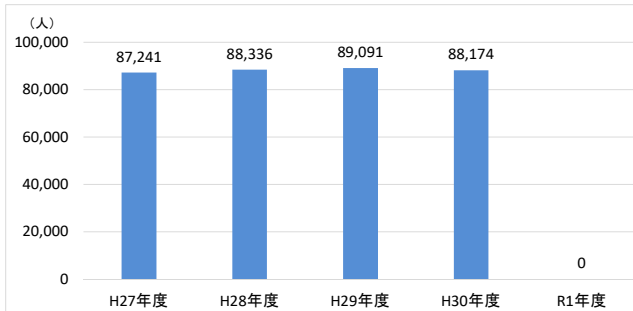




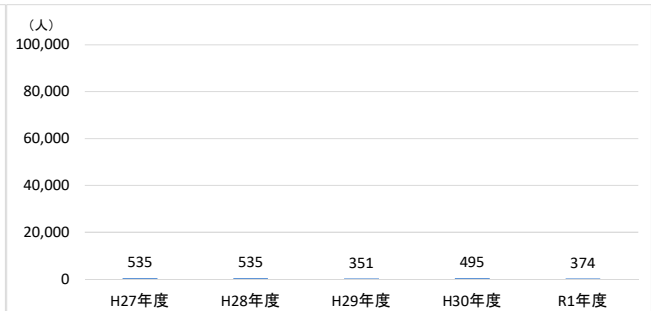
## ●各路線の利用者数

### 【市民バス】

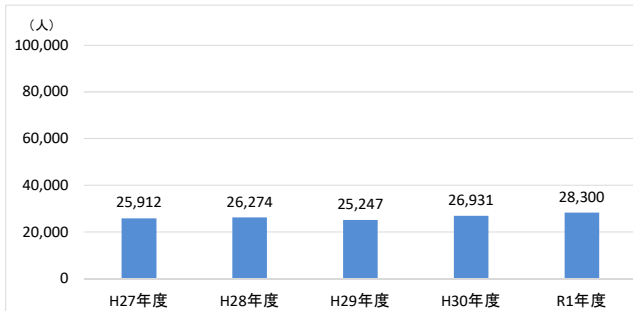
古川線（栗原市民バス）



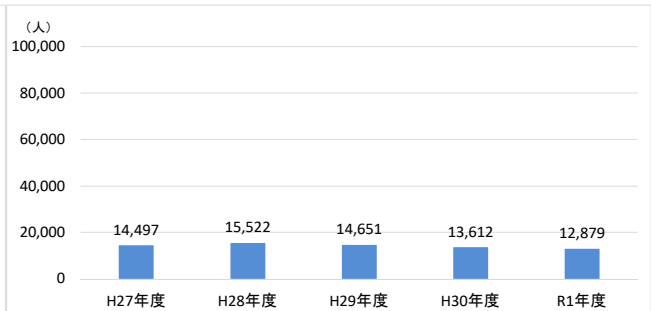
清滝線



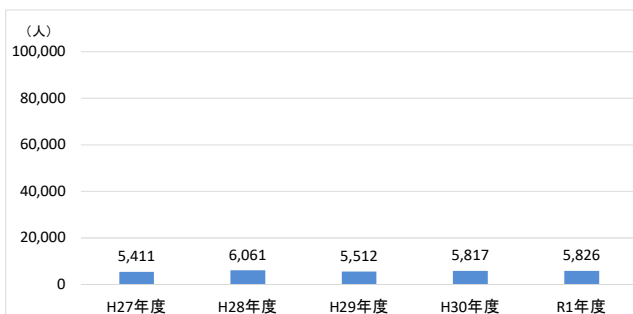
鳴子線



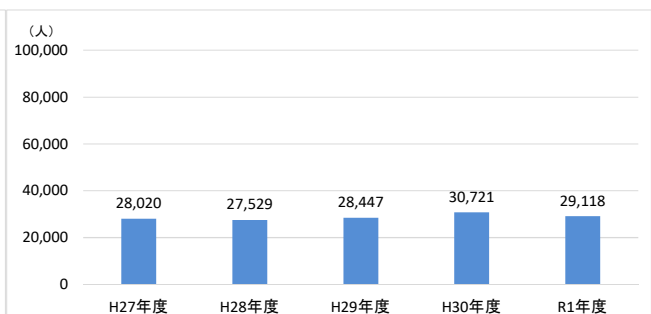
大貫線



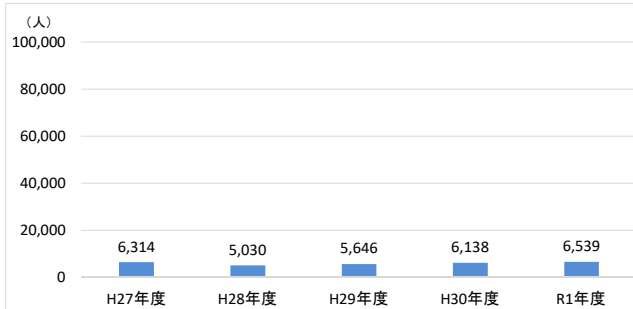
高倉線



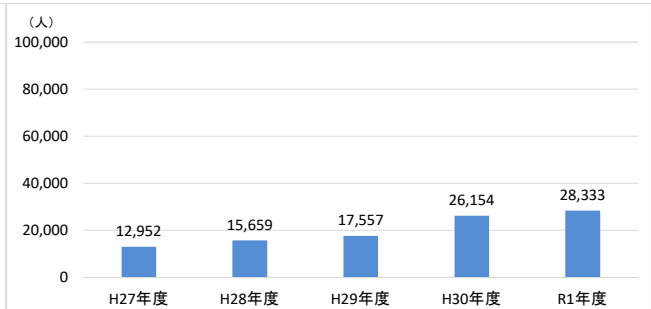
三本木大衡線



宮沢真山線

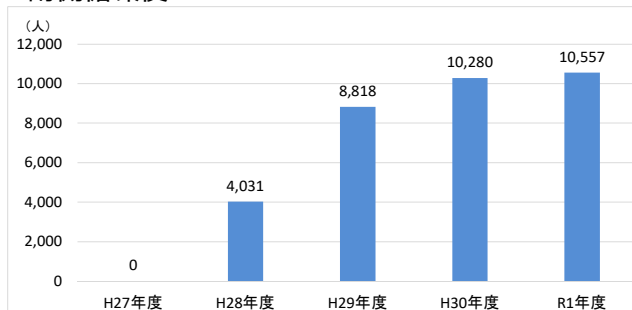


松山鹿島台線

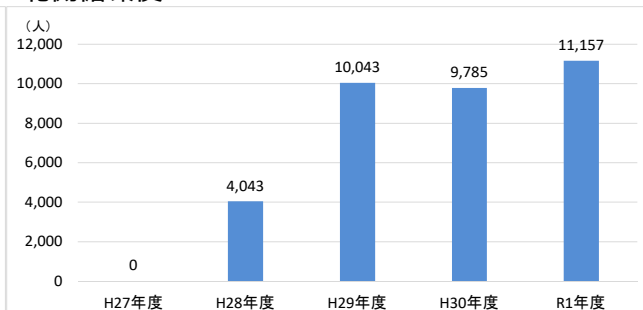


## 【中心市街地循環便】

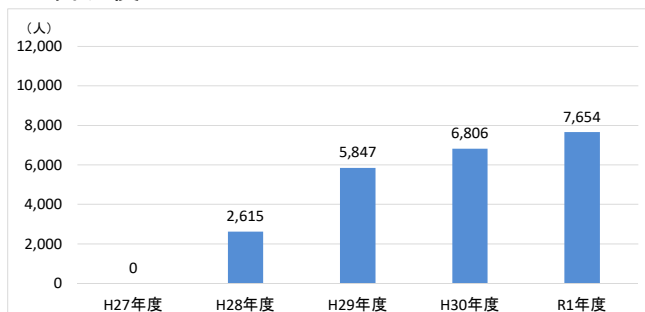
南側循環便



北側循環便



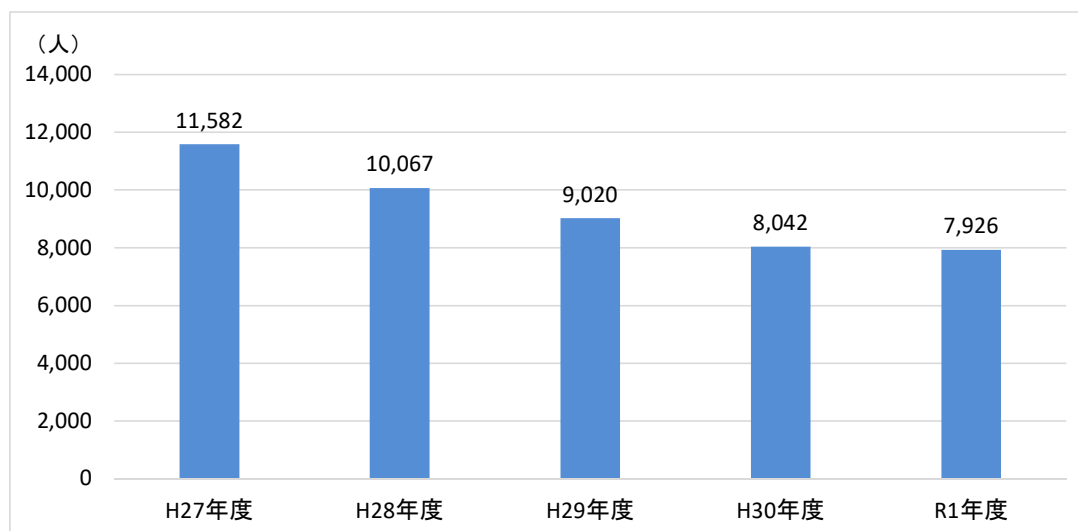
シャトル便



## 2) 市営バスの利用状況

●市営バス（鬼首線）の利用者数は、年々減少傾向にあります。

### ●市営バス（鬼首線）の利用者数（年度別）

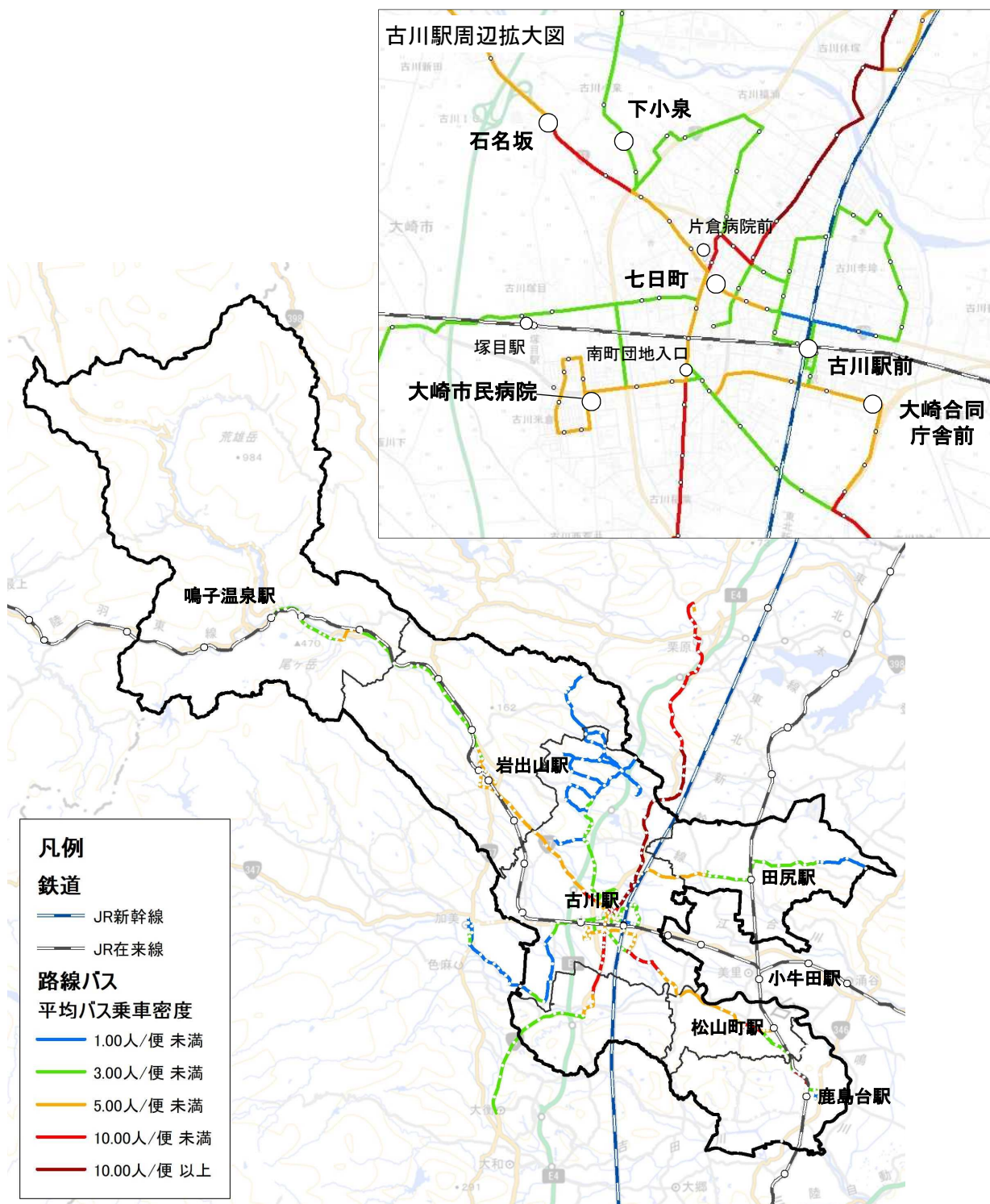


- 1日当たりの平均乗車人員について、栗原市方面が多く、1日当たり100～200人程度が利用しています。
- 古川駅から離れた地域は1日当たりの平均乗車人員が少ない状況です。



#### 4) 市内バス路線の乗車密度

- 1 便当たりの平均乗車密度について、栗原市方面は 1 便当たり 10 人前後が利用しています。
- 加美町方面、岩出山地域・古川地域清滝地区方面は 1 便当たり 1 人未満と、利用が少ない状況です。



国土数値情報 より



## (6) 地域内公共交通・グループタクシーの状況

### 1) 地域内公共交通

- 地域内公共交通は、クルマを運転できない人や高齢者などが病院や銀行など生活移動をするため、地域住民、事業者、行政の各主体が連携し、運行しています。
- 各地域で運営委員会を設置し、話し合いで決定しているため、地域によって、運行方法や運賃等は異なります。
- 鹿島台地域(三之助わらじ号)では、定時定路線型で運行、鳴子温泉地域鬼首地区(鬼っこ号)では、定時定路線と予約型乗合方式で運行、その他の地域は全便が予約型乗合方式で運行しています。また、鬼っこ号(定時定路線型)については、一旦需要がなくなったため1便減便しましたが、今般、再び通学需要が生じ運行再開が必要な状況となりました。  
採算性を鑑み、路線定期型として運行するのではなく、路線不定期型として運行再開するのが最適と考えて、R7.10～1 便追加しました。
- 岩出山地域(やまゆり、もみの木)、鳴子温泉地域鬼首地区(鬼っこ号)では、JR 各駅や市民病院分院へ連絡する地域の移動手段としての役割を担っています。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により、運行を維持・確保する必要があります。

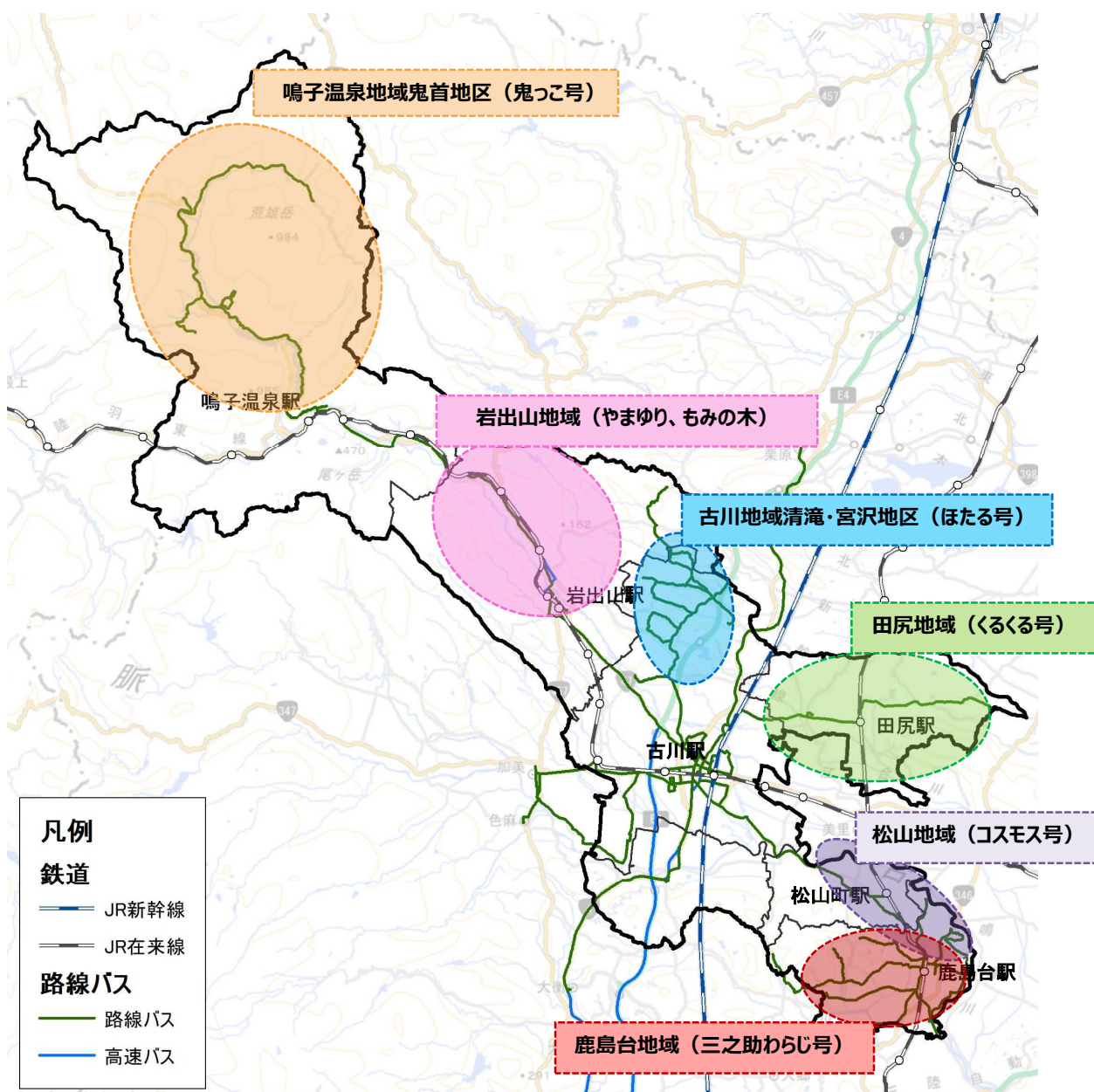
地域	名称	運行地域	概要	運賃
松山	コスモス号	松山地域内 鹿島台地域 (大崎市民病院 鹿島台分院) 美里町 (ヨークヘ'ニマル小 牛田店)	・平日(火～金)運行 ※祝日、12月29日～1月3日を除く ・会員登録制 ・全便予約型乗合方式 ・8～11時、13～16時 ※1時間1便運行(12時を除く) ※小型(5人)1台で運行	松山地域内:一律300円 鹿島台地域(地域外) 美里町(地域外) :一律600円
鹿島台	三之助 わらじ号	鹿島台地域内	・平日(月～金)運行 ・誰でも利用可 ・定時定路線(6路線) ※普通(10人)2台で運行	定時定路線:一律300円 (小中学生150円)
岩出山	やまゆり、 もみの木	岩出山地域内	・平日(月～金)運行 ・地域内に居住し会員登録者が利用可 ・全便予約型乗合方式 7～15時1時間1便運行 ※普通(15人)1台、 小型(5人)1台で運行	一律500円 (小中学生、高校生300円)
鳴子 温泉	鬼っこ号	鬼首地区内	・平日(月～金)運行 ※祝日、12月29日～1月3日を除く ・地域内に居住し会員登録者が利用可 ・定時定路線型 上り:第2便 下り:第7便 ・路線不定期運行型 事前予約型による乗合タクシー方式 上り:第1便(追加) 下り:第3～6便 ・区域運行型 9時30分、10時30分の2便運行 ※普通(10人)1台で運行	定時定路線:100～500円 路線不定期運行型:100円～500円 予約型乗合:一律200円
田尻	くるくる号	田尻地域内	・平日(月～金)運行 ・地域内に居住し会員登録者が利用可 ・全便予約型乗合方式 8～17時1時間1便運行 ※小型(5人)2台で運行	一律500円

(R7.9月時点)

地域	名称	運行地域	概要	運賃
古川	ほたる号	清滝地区 宮沢地区 古川中心部(6拠点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日(火、水、金) 運行</li> <li>全便予約型乗合方式</li> <li>8、10、12、14、16 時</li> <li>※小型(5人)1台で運行</li> </ul>	清滝・宮沢地区内：200 円 古川中心部：500 円

(R3.10月時点)

●地域内公共交通の運行地域





## 2) グループタクシー

- 古川地域（東大崎地区・富永地区）の廃止代替バスの廃止、三本木地域の地域内公共交通（予約型乗合方式）が本格運行に至らなかったため、代替手段としてグループタクシー制度を導入しています。

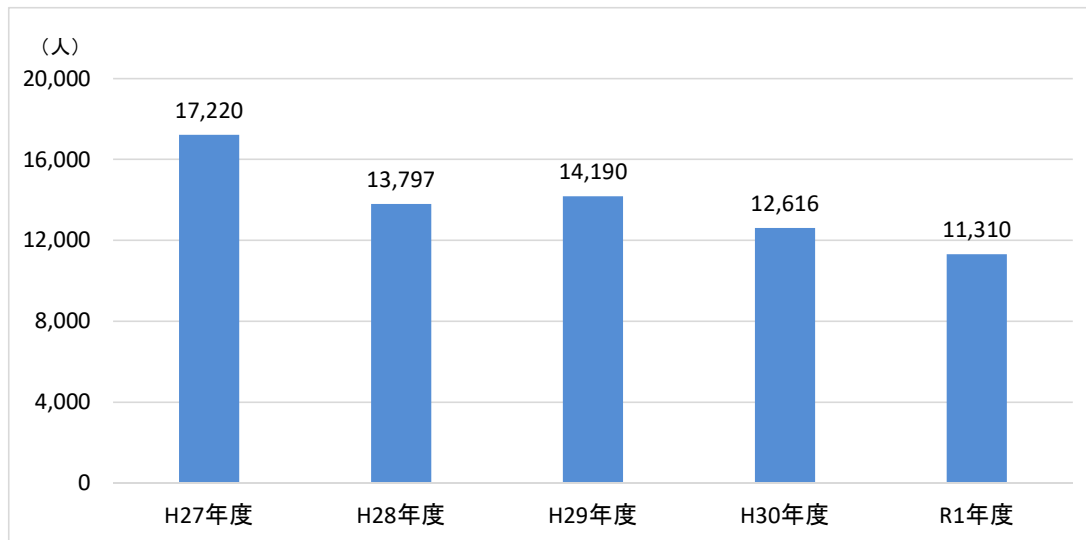
地域	対象地域	概要
古川	古川地域 (東大崎地区、富永地区)	グループタクシー制度は、2人以上でタクシーを共同利用する際に支払う運賃の一部を助成する制度で、1枚当たり600円の助成券を1人当たり月2枚（最大年24枚）交付しています。
三本木	三本木地域	

※満65歳以上で、自宅から最寄りのバス路線の停留所までの距離が800m以上ある人が対象。

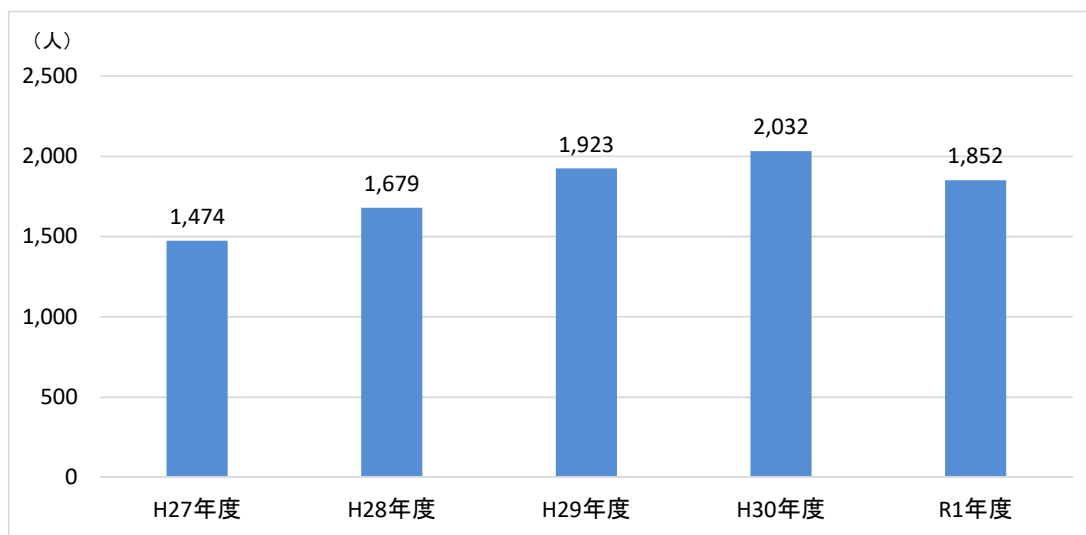
## (7) 地域内交通・グループタクシーの利用状況

- 地域内公共交通の利用者数は、H27年度からR1年度にかけて減少傾向にあります。
- グループタクシーの利用者数は、H27年度からH30年度にかけて増加していますが、R1年度の利用者は前年度よりも減少しています。

### ●地域内公共交通の利用者数（年度別）

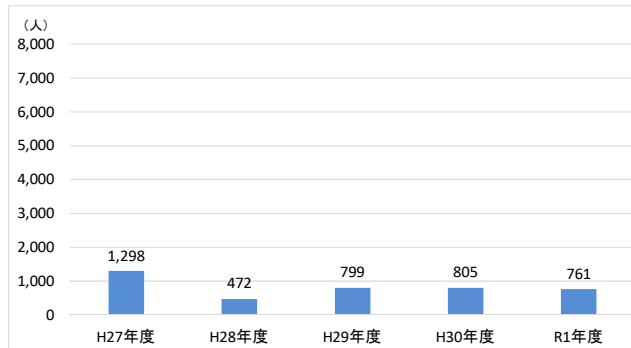


### ●グループタクシーの利用者数（年度別）

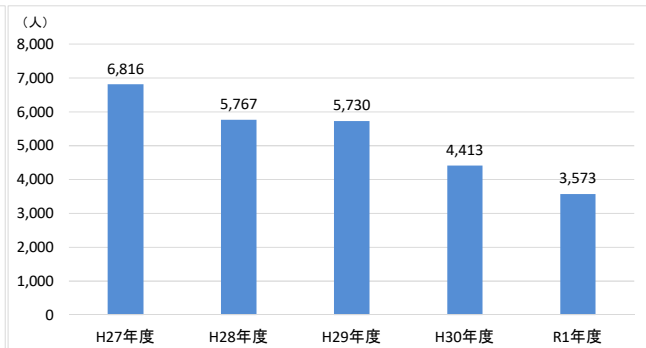


## ●各地域内公共交通の利用状況

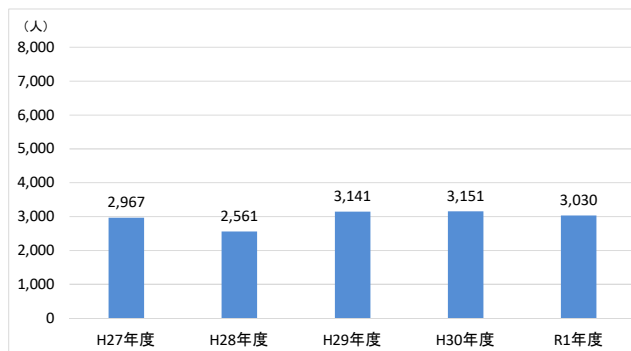
松山地域（コスモス号）



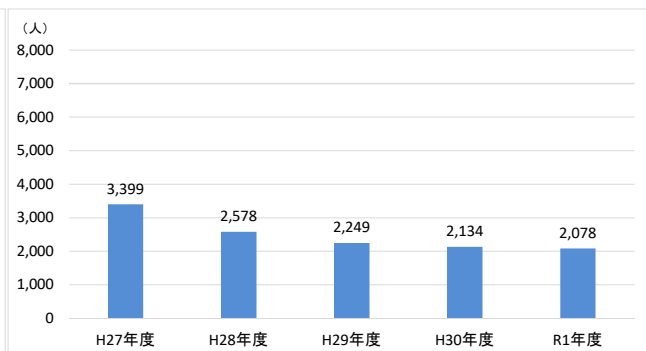
鹿島台地域（三之助わらじ号）



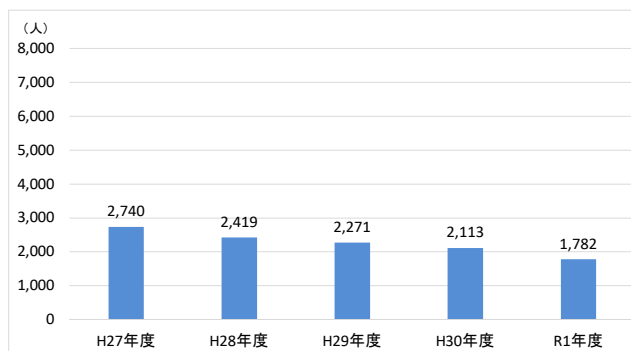
岩出山地域（やまゆり、もみの木）



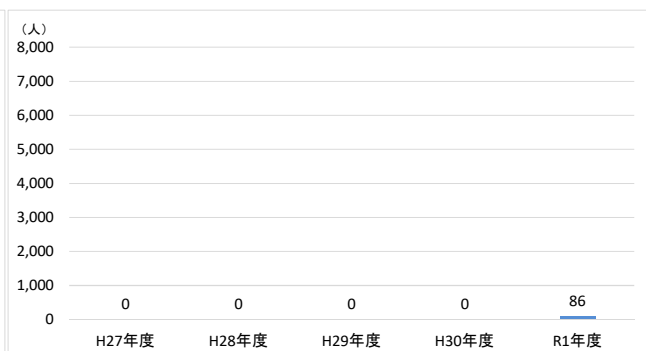
鳴子温泉地域鬼首地区（鬼っこ号）



田尻地域（くるくる号）



古川地域清滝・宮沢地区（ほたる号）

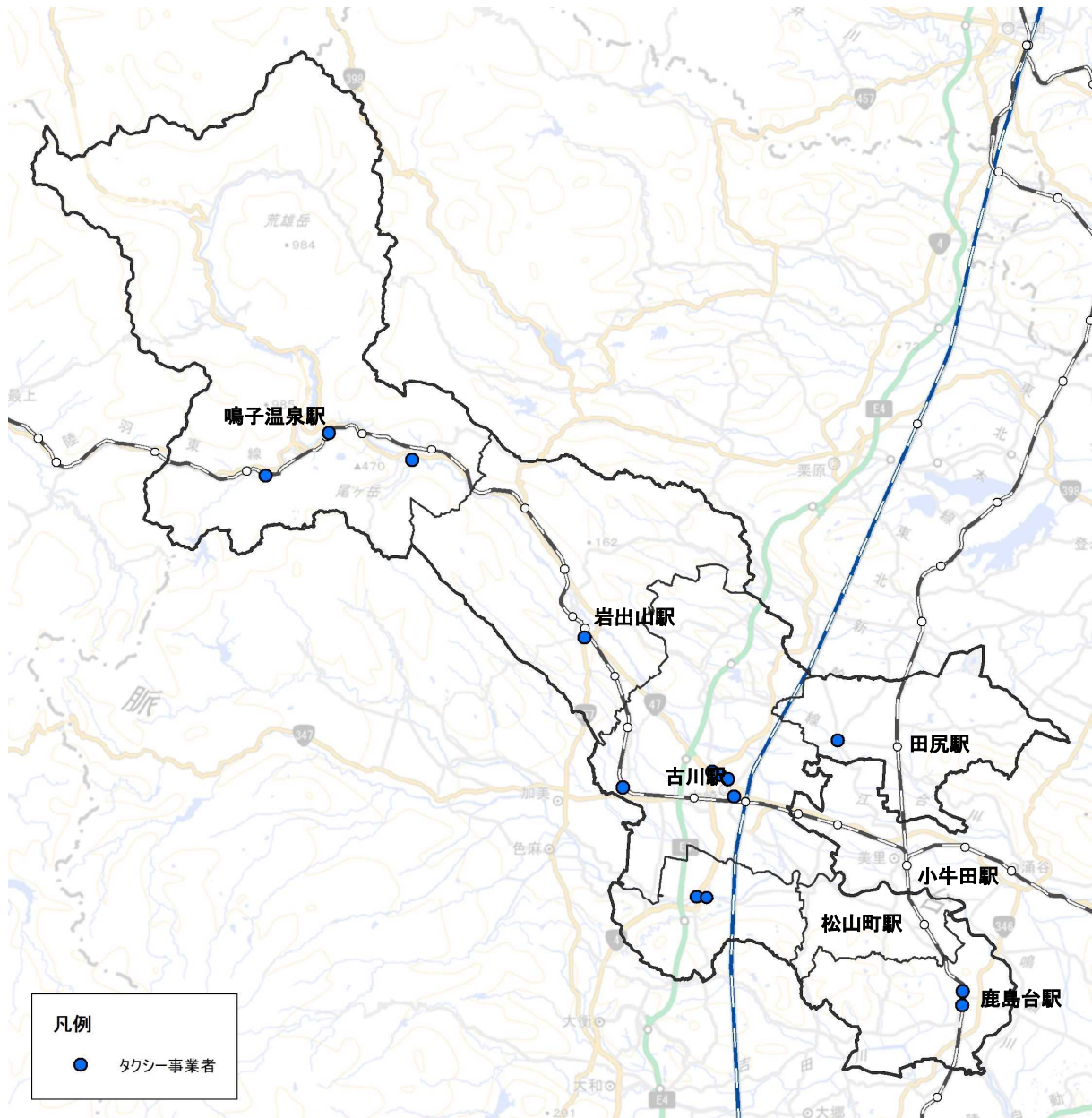


※ほたる号は、R1 年度から実証運行を開始。

## (8) タクシーの状況

- 市内のタクシー協会に加盟しているタクシー事業者は14社あり、各地域の拠点駅付近等に立地しています。
- 市内のタクシー車両台数のうち、大多数を古川地域に立地する営業所が占めています。その他の地域に立地するのは、車両台数が少ない営業所が大半です。

### ●市内のタクシー事業所分布



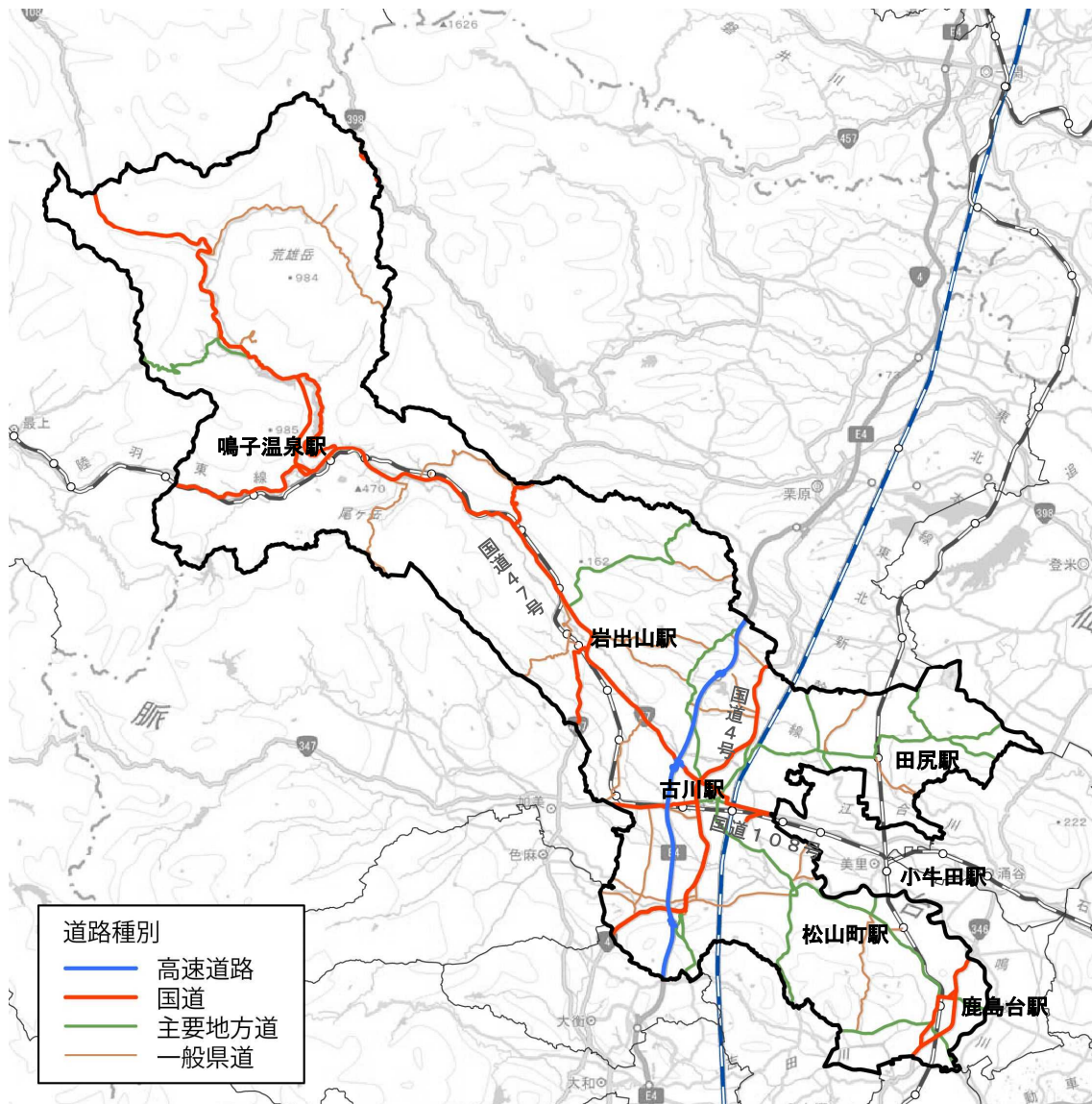
宮城県タクシー協会 HP より



## (9) 市内の道路交通の状況

### 1) 道路ネットワーク

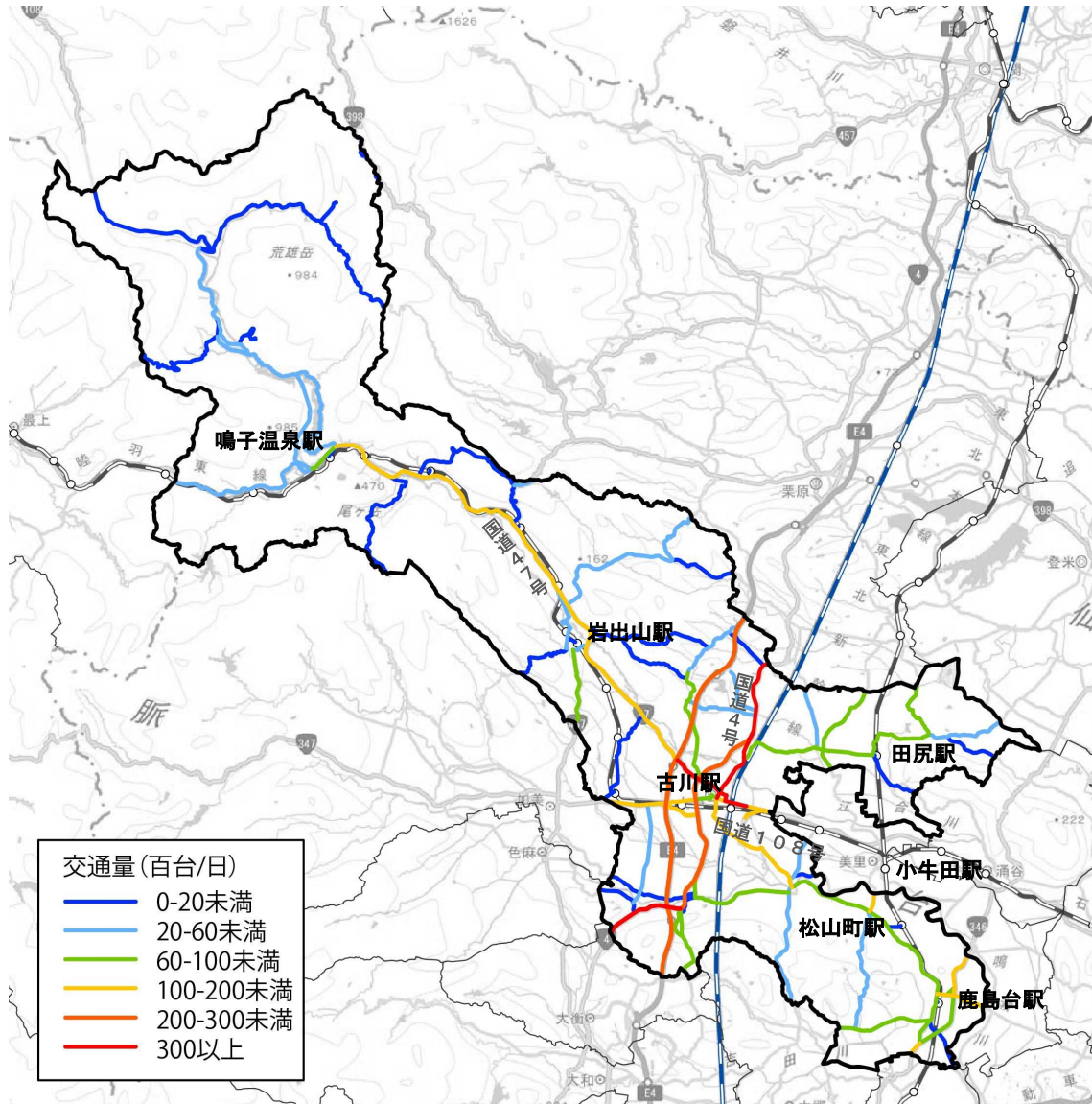
- 市内の道路網は、南北方向に高速道路、国道4号が縦断し、東西に国道47号、国道108号、国道347号が横断しています。また、鹿島台地域の南北方向に国道346号、各地域に一般県道や主要地方道が通っています。



H27 道路交通センサス より

## 2) 道路の交通量の状況

- 市内の交通量は、古川駅周辺の交通量が多く、鳴子温泉地域など、古川駅から離れた地域の交通量は少ない状況です。

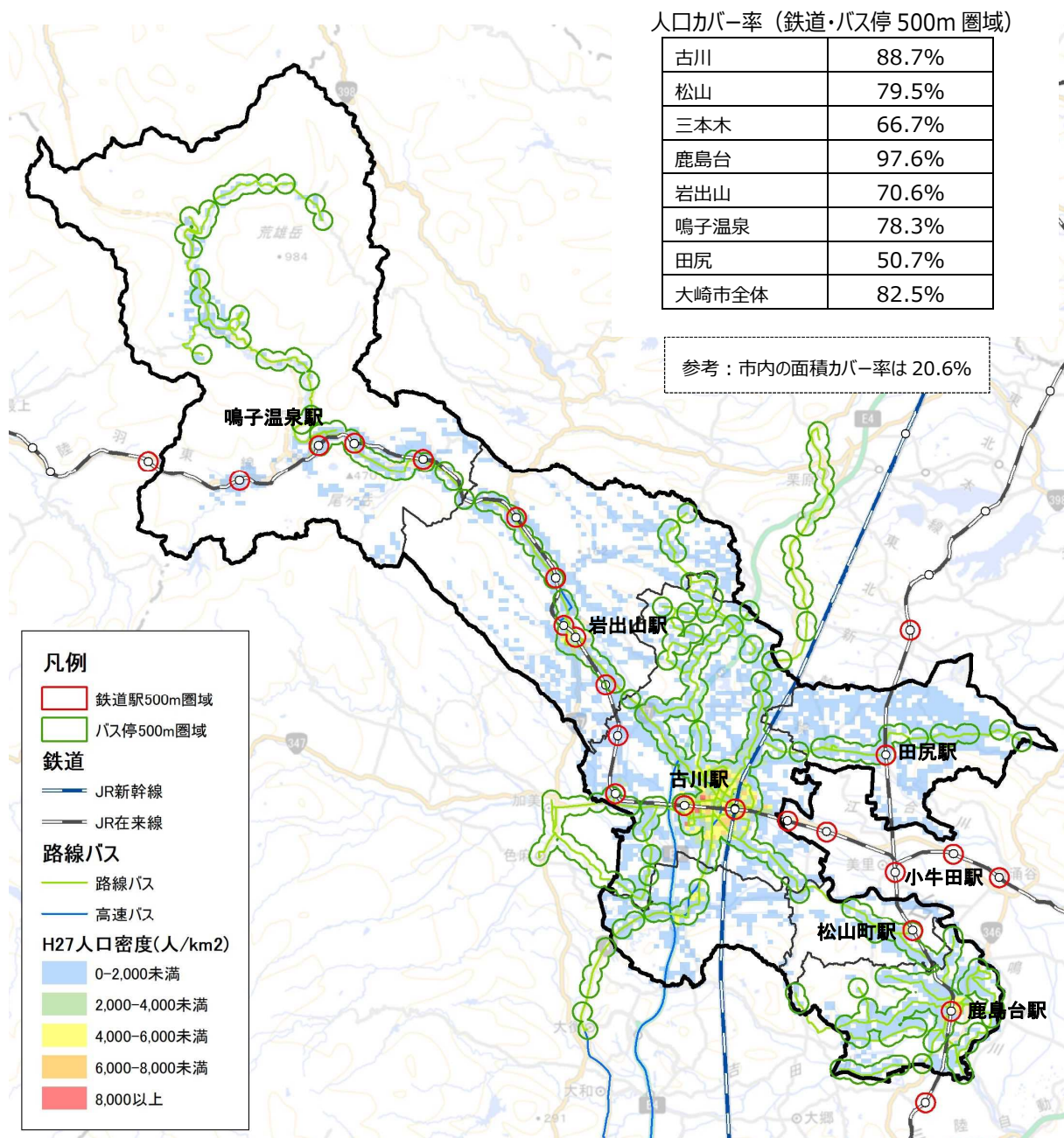


H27 道路交通センサス より



## (10) 公共交通の利用圏域と人口分布

- 市内の公共交通の面積カバー率は約20%と低くなっていますが、人口が集積している地域を運行しているため、人口カバー率は80%以上と高い状況です。
- 清滝地区（実証運行）、松山地域、鹿島台地域、岩出山地域、鳴子温泉地域鬼首地区、田尻地域では、予約型の地域内公共交通の運行により、鉄道や路線バスの利用が不便な地区をカバーしています。

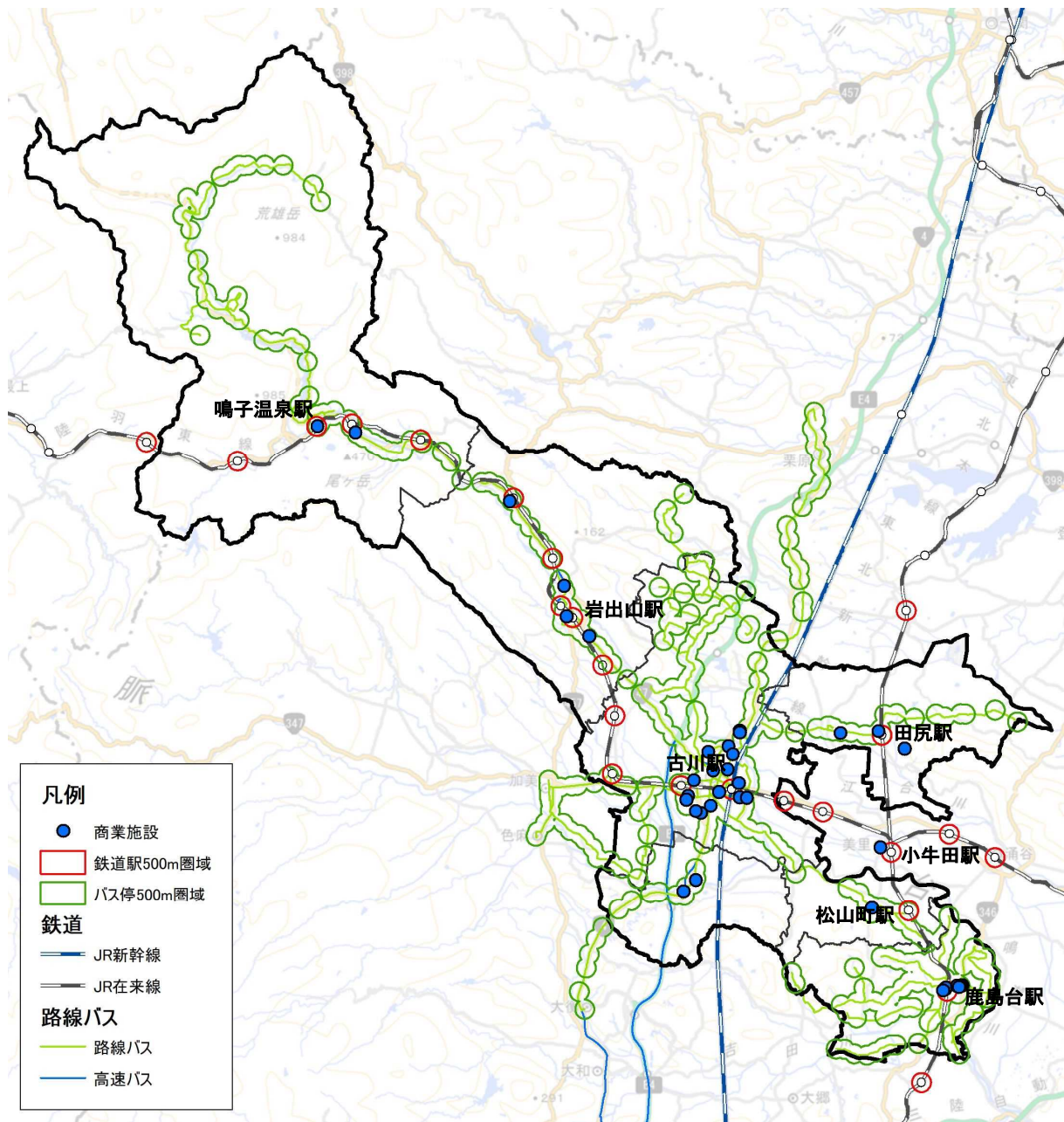


国土数値情報、国勢調査 より

## (11) 公共交通の利用圏域と主要施設

●市内の商業施設、医療施設、公共施設、学校等は、概ね公共交通の沿線に立地しています。なお、一部、観光施設等で、公共交通がカバーしきれない箇所もあります。

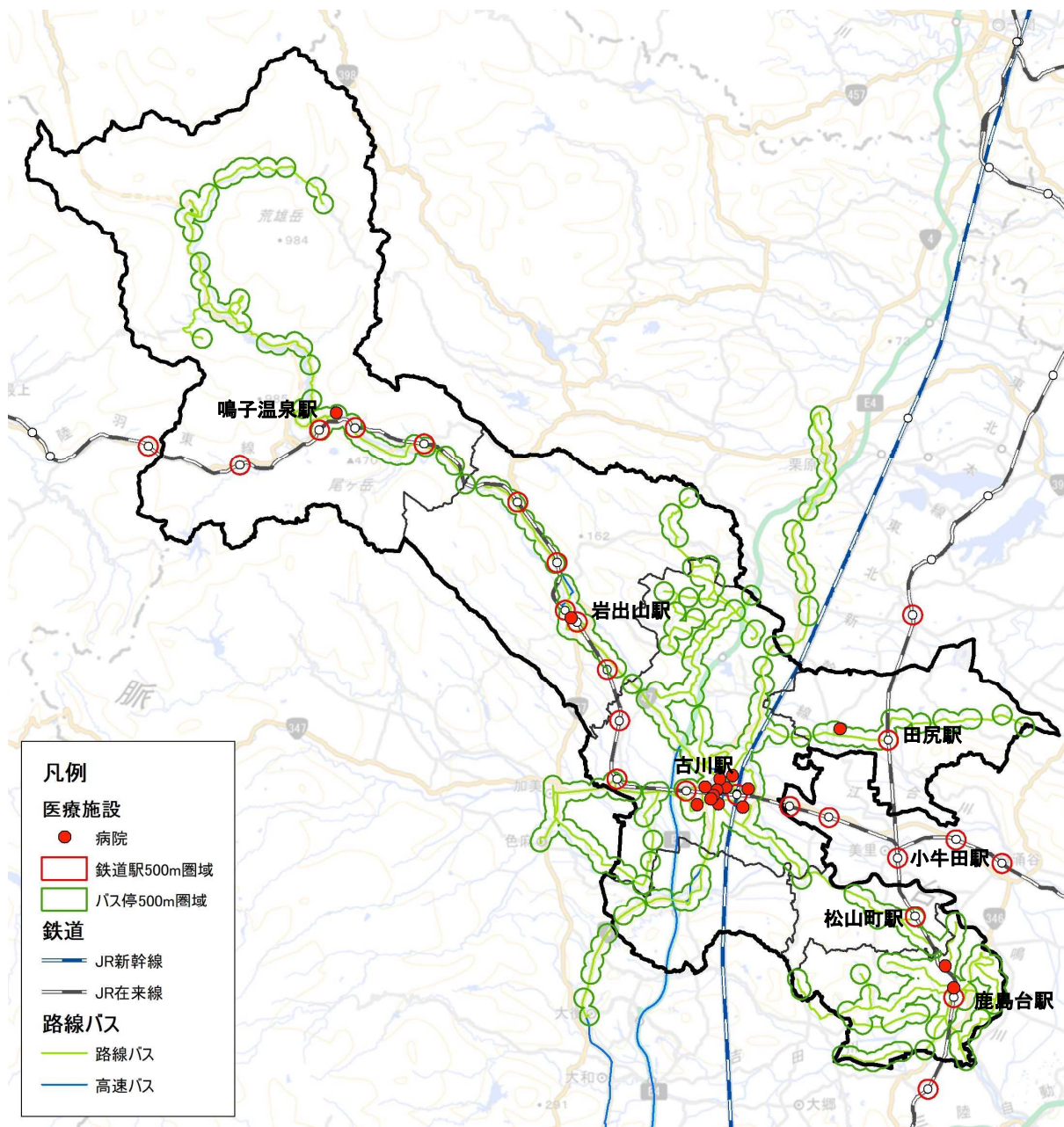
### ●利用圏域と商業施設



国土数値情報に情報を追加して作成

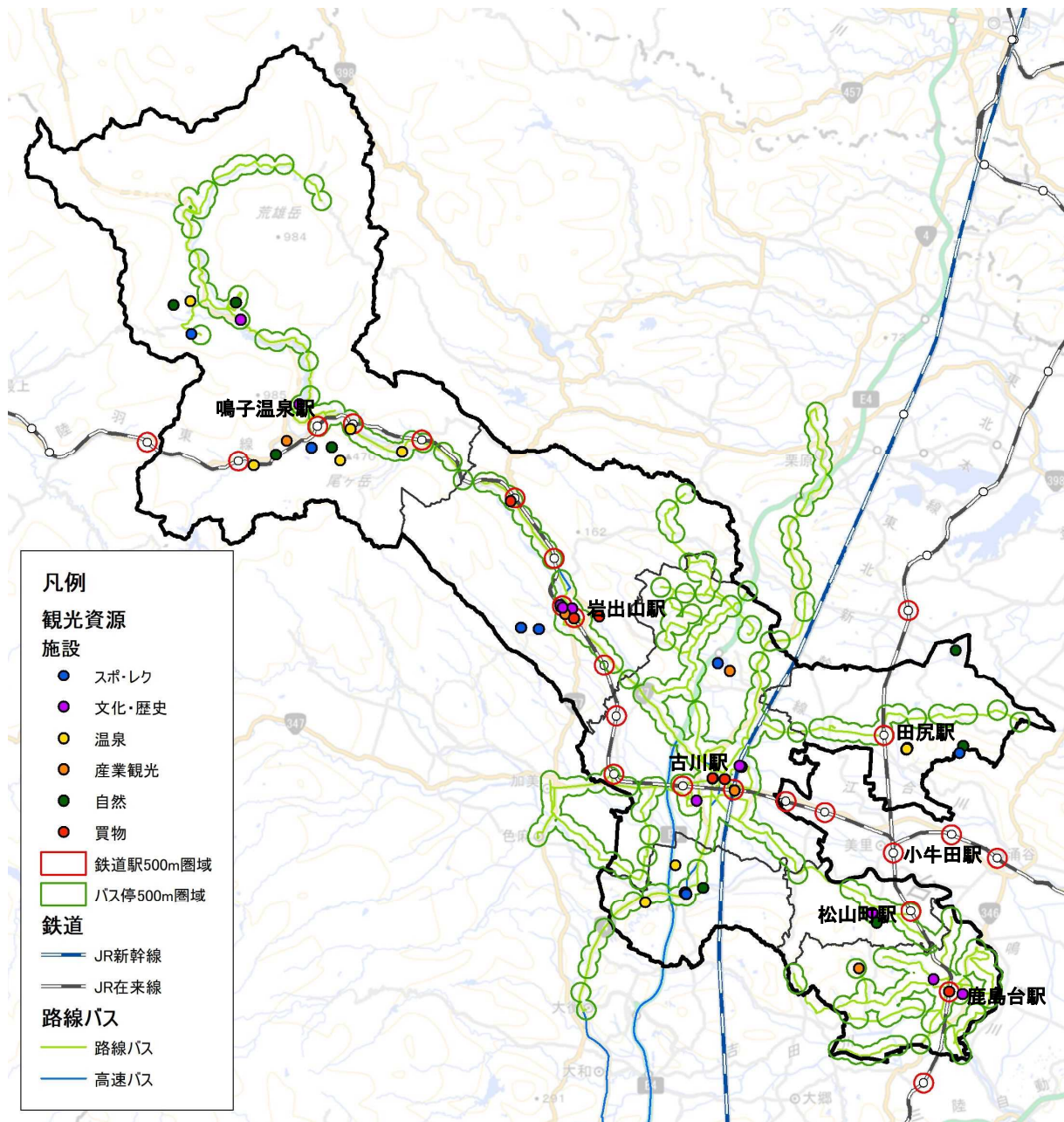


●利用圏域と医療施設



国土数値情報 より

●利用圏域と観光施設



国土数値情報に情報を追加して作成

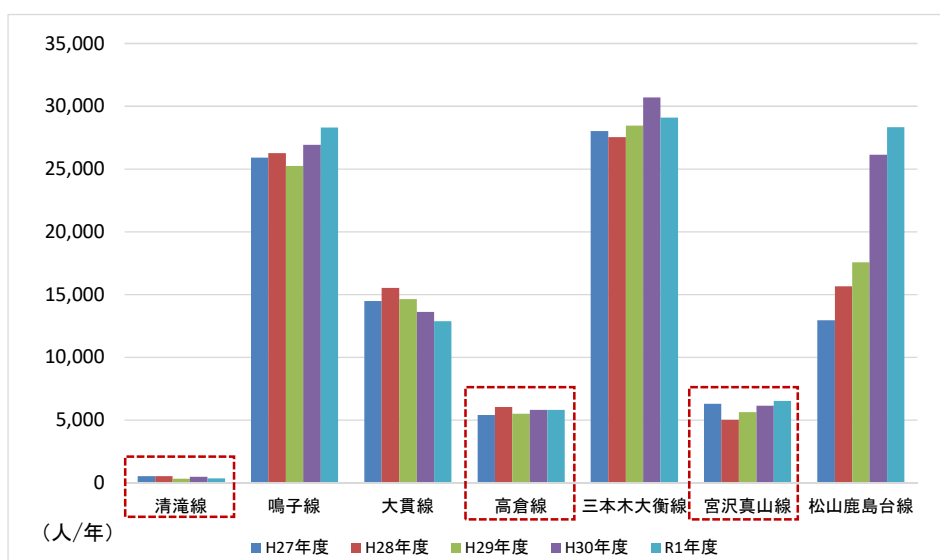
## 4 市民バス・地域内公共交通の状況分析

### 4-1 「市民バス」の利用状況等について

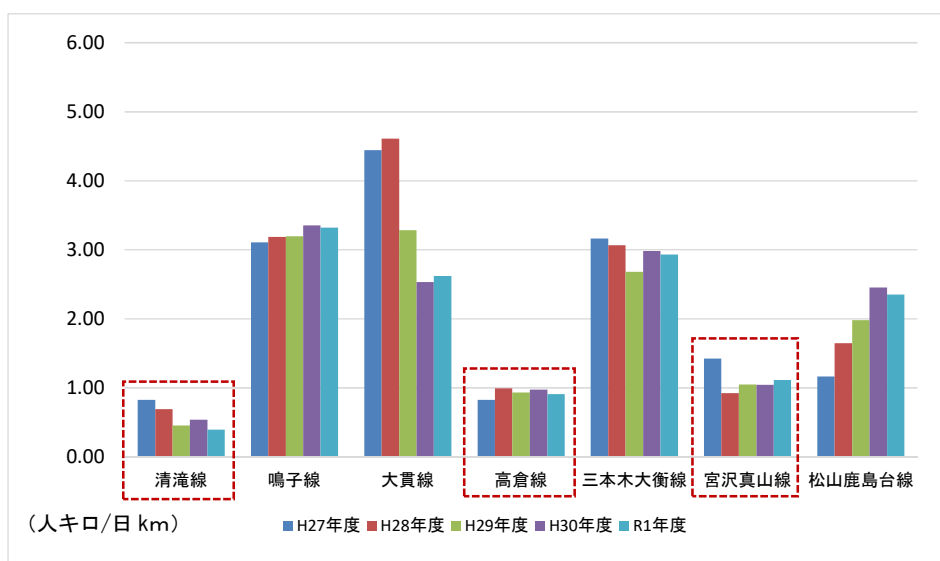
#### (1) 大崎市民バスの利用状況

- 大崎市民バスの年度別の利用者数は、鳴子線、三本木大衡線、松山鹿島台線で多く、清滝線、高倉線、宮沢真山線の利用者は少ない状況で、特に清滝線は年間500人以下となっています。
- 近年、松山鹿島台線は増加傾向、大貫線は減少傾向が見られます。
- 乗車密度は、経年的に、鳴子線、大貫線、三本木大衡線が高く、清滝線、高倉線、宮沢真山線の乗車密度は低い状況（1人キロ/日km程度以下）です。
- 乗車密度が低い路線に関しては、運行方法が非効率となっています。

年度別利用者数の推移（古川線を除く）



年度別乗車密度の推移（古川線を除く）

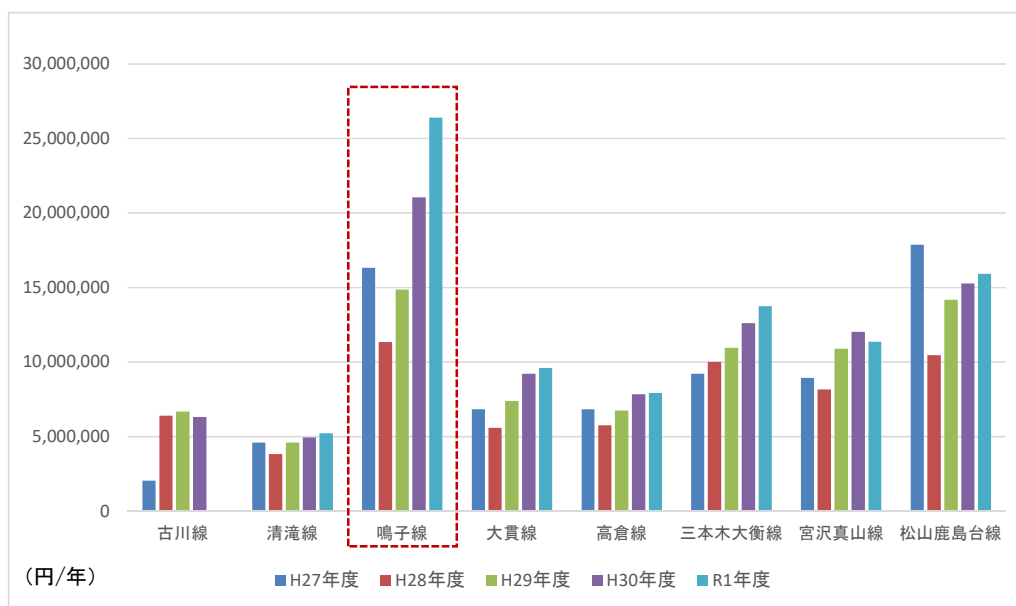


## (2) 大崎市民バスの行政負担状況

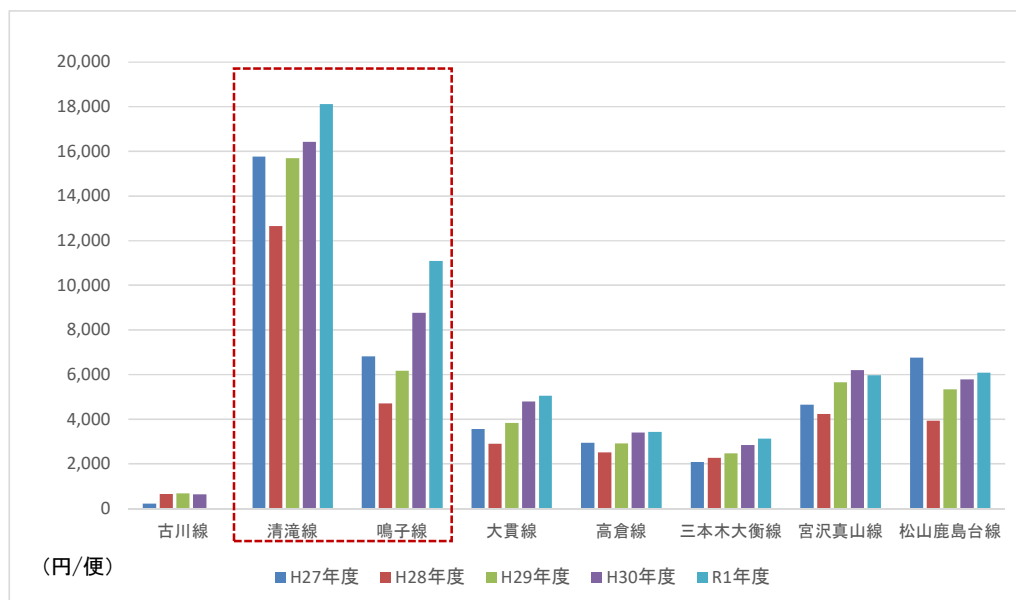
- 市民バスへの補助金の支出状況は、近年、いずれも概ね補助額が増加する傾向にあり、特に鳴子線への補助額が最も多く、増加も顕著です。1 便当たりの補助額をみると、清滝線、鳴子線が多い状況です。なお、補助金は、収支の差額に対し支出されています。

\* 古川線は、平成 31 (令和元) 年度から栗原市の単独運行となっています。

市民バス運行事業補助金の推移



1 便当たりの市民バス運行事業補助金の推移

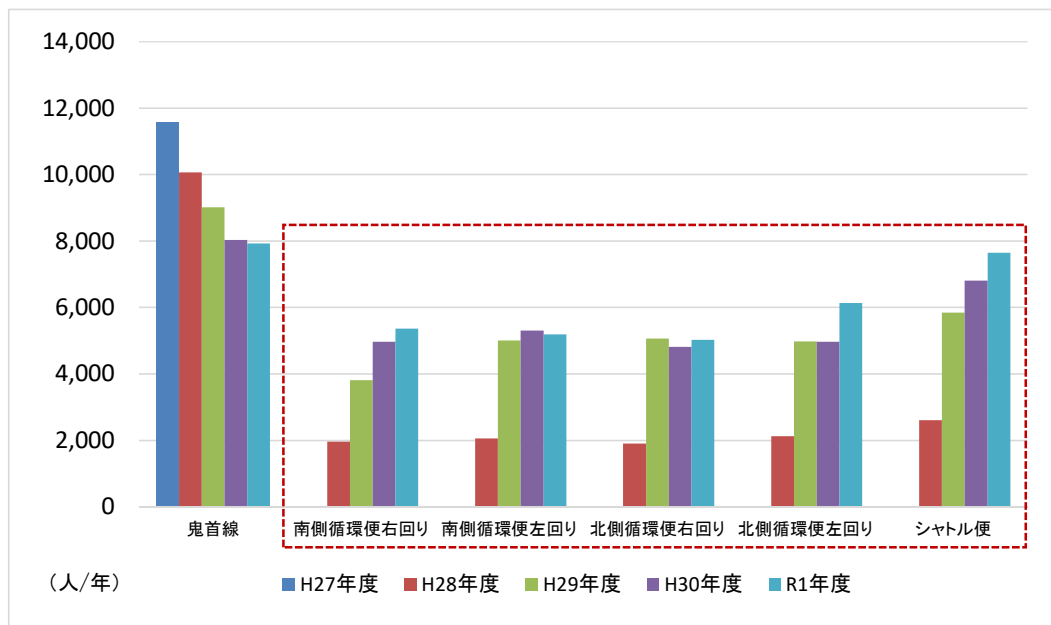




### (3) 中心市街地循環便及び鬼首線の利用状況

- 中心市街地循環便及び鬼首線の年度別の利用者数は、直近年で、鬼首線が年間8,000人程度、中心市街地循環便（南側、北側、シャトル便の計）は3万人程度です。
- 中心市街地循環便の利用者は概ね右肩上がりですが、鬼首線は減少が続いています。

年度別利用者数の推移

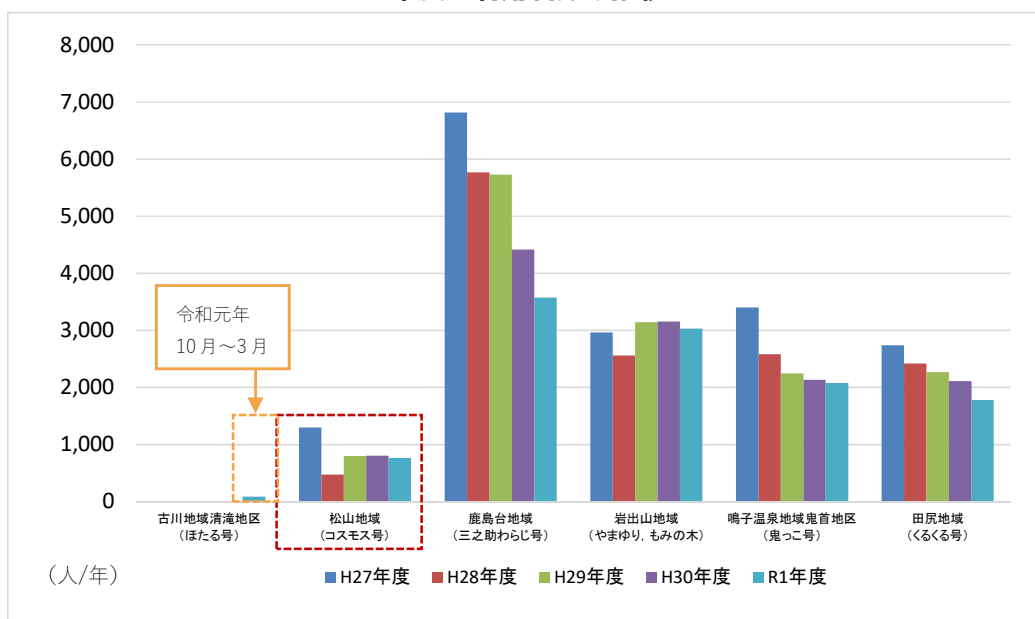


## 4-2 「地域内公共交通」の利用状況等について

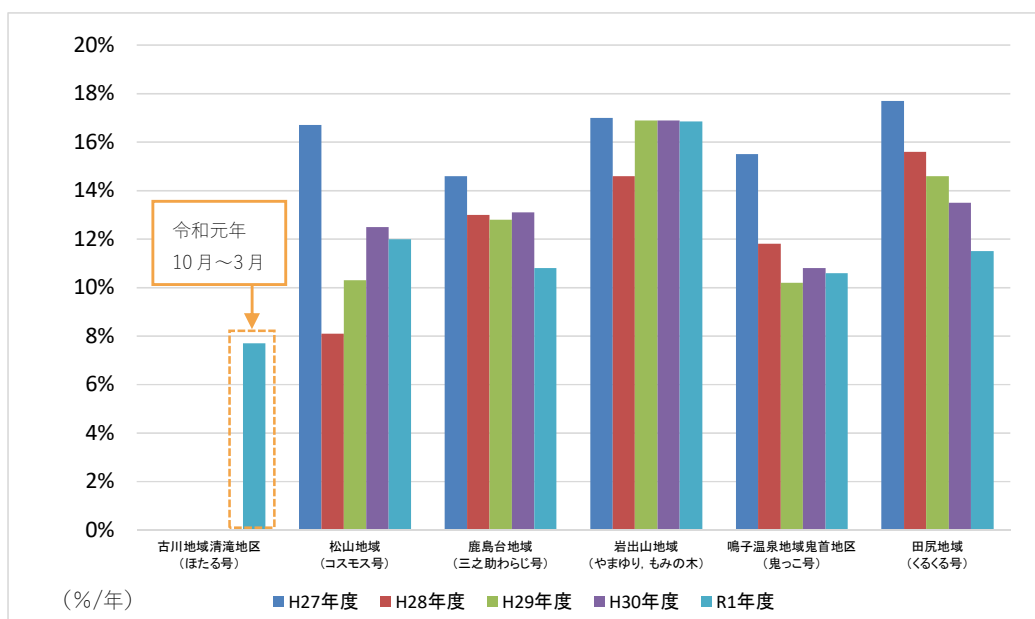
### (1) 地域内公共交通の利用状況

- 地域内公共交通の年度別の利用者数は、鹿島台地域が最も多く、松山地域の利用は少ない状況で、年間 1,000 人以下となっています。
- 古川地域清滝地区は令和元年 10 月から運行していますが、利用は少ない状況です。近年、鹿島台地域、鳴子温泉地域鬼首地区、田尻地域は減少傾向が見られ、特に鹿島台地域の減少は顕著です。

年度別利用者数の推移



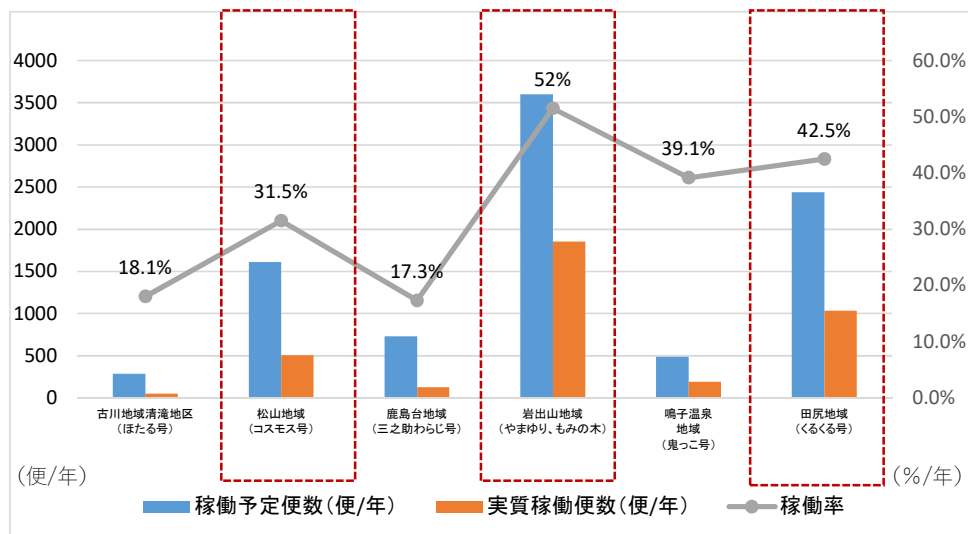
年度別乗車率の推移



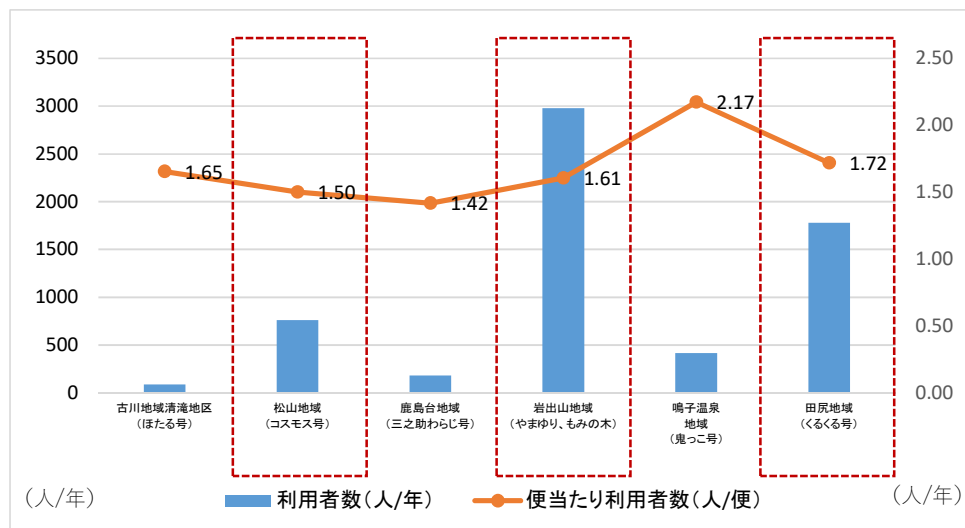
\* 地域内公共交通の運行方法、車両の大きさ・台数等は、地域により違いがあることから、一概に比較はできません。

- 地域内公共交通（デマンド型）の稼働率は、岩出山地域、田尻地域、松山地域、鳴子温泉地域鬼首地区が高く、古川地域清滝地区、鹿島台地域の稼働率は低く 20%未満です。ただし、どの地域においても予定稼働便数の半分も運行していない状況です。
- 年間の利用者数は、岩出山地域、田尻地域で多くなっていますが、いずれも 1 便当たり 2 人未満です。これらのように稼働率が比較的高く、便当たりの利用者が少ない地域内公共交通は、何らかの非効率な面がある可能性があります。

地域内公共交通の運行予定便数及び実稼働便数



地域内公共交通の年間利用者数及び便当たりの利用者数

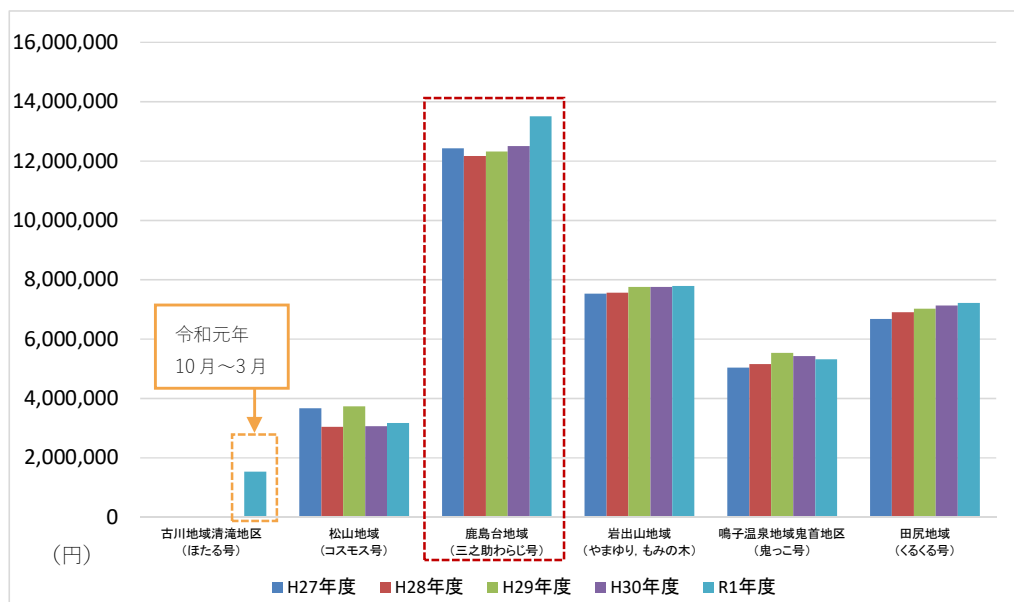


令和元年度地域内公共交通利用実績データより

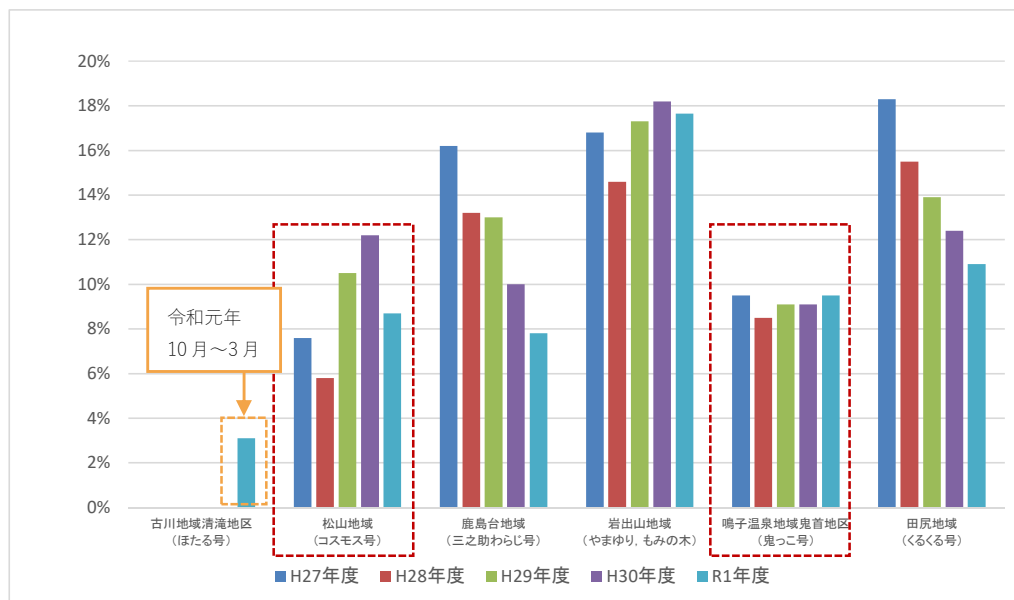
## (2) 地域内公共交通の収支状況

- 地域内公共交通への委託料は、鹿島台地域が最も多くなっています。
- 収支は、松山地域、鳴子温泉地域鬼首地区の収支は良くない状況です。
- 近年、いずれも概ね収支率が下がる傾向にありますが、鹿島台地域、田尻地域の低下が顕著です。

地域内公共交通の委託料



地域内公共交通の収支状況



\* 地域内公共交通の運行方法、車両の大きさ・台数等は、地域により違いがあることから、一概に比較はできません。